

記 入 日 2018 年 01 月 14 日

1. 概 要

実践団体名	上富田ふれあいルーム		
連絡先	担当者 幾島浩恵 (0739-47-0135)		
プランタイトル	改訂版 上富田ふれあいルーム防災年間計画！		
プランの対象者※1	小学生（高学年） 地域住民	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

「防災は特別なものではなく、当たり前なもの」毎月の季節の行事に、防災に必要な知識と体験を取り入れることで、自然に楽しく防災を学ぶ。

朝来（あつそ）児童館が避難所になった時の事を具体的に考え、行動できる小学生をめざす。災害時に「衣・食・住・要配慮者に気づき、声をかけることができる」を目標とする。

【プランの概要】

1 年間の行事に防災を関連させ、不便な中でも楽しみながら、衣・食・住を満たすことができる。

あいサポーターの研修を受講することで、災害時だけでなく要配慮者に手助けすることができるようになる。また、手ぬぐいやバンダナの使い方を知り、それらをリュックや巾着にすることで、普段から身の周りに備えておくことができる。

ガラクタワークで、環境にも配慮しつつ、地元の人とのつながりを広げる。

和歌山県の「防災」に関わる物、場所、取り組みを知り体験することで、和歌山ならではの災害に立ち向かう力を得て「みんなで助かる」ための強い意志を持つことができる。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

「防災」を「勉強」ではなく、「遊び」としてとらえることで、楽しみながら学ぶことができる。体験や学習だけでなく、自分達で考えた物を準備して身近に備えることが出来たので、いざという時に役に立つ。

災害時に一番頼りになるのは身近な人である。自分の住む地域のスゴイところ「和歌山ってスゴイ！」を知ること、誇りを持ち、地域を好きになり、地域の方との接点を多く持つことが出来た。これこそが「防災」の原点だと思う。



2. プランの年間活動記録 (2017年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	(1) 野草を食べよう (2) 「初めまして会」 セント・パトリックデー ペットボトルのプランター作り&花壇に福島のみまわりを植えよう	(1) 野草採取できる場所の確認、食べられる野草、危険な野草の資料、調理器具 (2) 「福島みまわり里親プロジェクト」種購入、花壇の準備、プランター用ペットボトル集め	(1) 食べられる野草を採取して天ぷらにすることで、あく抜きが必要なく美味しく食べることが出来る (2) アイルランドのセント・パトリックデーにちなんで緑色の物を身に付け、みんなでみまわりを植える。新規申し込みの子にとっては初回だったので、「初めまして会」として、自己紹介もした
5月	(3) 食品トレーのプレート(家族の避難場所をみんなに分かるように記そう) (4) ナショナルトラスト発祥の地! 南方熊楠の残した天神崎を歩こう	(3) 事前に家族で避難場所を話し合っておく (4) 天神崎自然観察教室申し込み、バスの手配、昼食の手配	(3) 雨天で内容変更。食品トレーのプレートに避難所を書き込み、家族の目に届く所に置いておく (4) 全員「あっこ児童館エコクラブ」のメンバーなので、ナショナルトラストの学習と、海のない上富田から海辺に行くことで、津波のことを自分のこととして考えられるようになる
6月	(5) 夏の避難所の敵! 除虫菊で蚊取り線香を作ろう (6) 和歌山に誇れる保存食 梅干と梅シロップを作ろう (7) 浮くっちゃポトルを作って水難事故から身を守ろう (8) 防災イスリュックを作ろう	(5) 除虫菊の資料集め、除虫菊と、パウダー、たぶ粉購入 (6) 青梅と梅干用の梅の入手手配・「深見梅店」に指導依頼 (7) 浮くっちゃポトル設置場所として、エフノカッテに依頼 (8) 牛乳パックと古着・災害時に役立つ長期保存できるもの	(5) 蚊取り線香は和歌山の上山英一郎氏により発明。「化学遺産」に認定。除虫菊パウダーで線香を作る。 (6) みなべの梅は「世界農業遺産」に認定。災害時の備蓄としても役立つ梅干を作る。梅シロップは疲労回復効果があり、かき氷シロップにも最高 (7) 水害の危険性が高い上富田で、水難事故から命を守るように製作 (8) 牛乳パックに災害時に役立つ物を詰め、普段はイスに、避難時にはリュックとなつて容易に持ち出せる。
7月	(9) 七夕メッセージ+七夕飾り製作 (10) 安否札を使ってみよう (11) 子どもの日だ! 燃えるファイヤー! 火おこし体験&マッチの使い方 (12) ロケットストーブの使い方 (13) 「あいサポート」になろう (14) 「ロービジョン体験」&目隠しでおやつ (15) 災害時施設状況伝達横断幕(SOSシート)製作 (16) 防災ビンゴ	(9) 七夕準備・彦星織姫の仮装 (10) 安否札の用紙をコピー (11) 太陽光とそれ以外の火おこしセット (12) ロケットストーブ・燃やすもの・食材 (13) 「あいサポート研修」申し込み・上富田町身体障害者会参加依頼 (14) ロービジョン体験キット・おやつ (15) オレンジシート・ビクトグラム他 (16) ビンゴと景品	(9) 七夕の短冊に書かれた願い事を彦星と織姫が応援するが、5W1Hに注意してもう一度書き直す。 (10) H26年度に製作した「安否札」を家族や親戚になつたつもりで書く (11) 様々な方法で火おこしを体験する。マッチを擦る体験。 (12) ロケットストーブの原理と使い方の説明。ソーセージを調理した (13) 県の「あいサポート」研修を申し込み、同じ地域に住む障害のある方と一緒に研修を受けた。 (14) 様々な見え方を知り、目隠しをしておやつや水を飲む体験をした。 (15) 災害時に情報を伝える手段として簡易 SOS シートを作った。 (16) 防災用語の意味を覚えるためのビンゴ
8月	(17) 一人用非常食セット (18) 暑中お見舞いカード (19) 「シニアホーム鯨洋」との交流 災害時に困ることを聞いてみよう&張子の「熊野の神の使い八咫鳥」製作 (20) 彦五郎堤防慰霊祭参加 (21) 新聞の帽子 (22) あなたの情報はどこにある? …緊急連絡キット&上富田の木「山桃」マグネット	(17) 牛乳パック・期限長めの非常食他 (18) 自宅の住所確認 (19) お礼の歌の練習・訪問依頼 (20) 彦五郎慰霊祭参加依頼 (21) 熱中症について (22) 山桃の飾り・「緊急連絡キット」の必要性について	(17) 過去のアンケートから、宿泊で欲しかった物を中心に牛乳パックに詰めて備える (18) 暑中お見舞いを通じて、自宅の住所を確認、家族に避難場所などの大切なことを伝える。 (19) 張子を下さった入居者さんにお礼と、障がいのある方が災害時に困ることを直接聞いてみる。 (20) 水害の多い上富田に伝わる伝説を聞くだけでなく、実際に起こった事柄であることを知る&「浮くっちゃポトル」をエフノカッテに贈呈 (21) 新聞で作る帽子で、熱中症予防 (22) 緊急時にも役立つ「緊急情報キット」を上富田の木「山桃」をモチーフに製作する
9月	(23) 味噌汁で元気100倍! 「みそまる」と「MISO de SMILE」づくり (24) 非常食の試食	(23) 味噌と保存できる具・和歌山発祥の具 (24) 缶入りパン	(23) 保存でき、手軽に食べられる味噌汁を作る。味噌汁の効能と、和歌山との関係を知る (24) 非常食を食べ比べてみて、普段の食事との違いを体験する
10月	(25) ~ (35) 避難所宿泊体験 (36) ハロウィンパーティー(傘妻さくら園訪問)	(25) 活動報告書参照 (36) 傘妻さくら園訪問の依頼。ジャックオーランタンの小物入れ	(25) 活動報告書参照 (36) 児童館近くの肢体不自由者の施設を訪問(4日目)お互いに助け合える関係をつくる
11月	(37) 紀伊田辺のヒーロー「武蔵坊弁慶」になろう! ついでに防災頭巾も作っちゃおう (38) 風呂敷&三角巾の使い方 (39) 手ぬぐいを上富田の木「山桃」で染めてみよう (40) ひまわりの種採取&種を食べってみよう	(37) 弁慶の衣装・防災ずきんの製作材料 (38) 三角巾・風呂敷 (39) 「山桃会」と合同活動・山桃樹皮粉他 (40) 福島みまわり里親プロジェクトで採取したひまわりの種・中国で販売されているひまわりの種	(37) 弁慶頭巾になぞらえて、「防災ずきん」を製作。中に衣類やマイトイレなど、避難先で役に立つ物を詰める (38) 四角い布(畳んで三角巾)で出来る事を知る (39) 「山桃会」や「ヤマモモ」について知る (40) 「福島みまわり里親プロジェクト」について知り、自分にも出来る支援をする。ひまわりの種を食べしてみる
12月	(41) ヤマモモ染めの手ぬぐいで防災リュック作り (42) クリスマスカンドルで停電に備えよう (43) 和歌山ハーバリウム (44) お正月リースを作ろう	(41) 防災リュックの中身他 (42) 熊野高校農業クラブに参加依頼 (43) ハーバリウムとは(キャンドルになる) (44) もやい結び指導	(41) 自分で染めた手ぬぐいで避難リュックを作る (42) キャンドルとマッチをセットにすることで、非常時にすぐ使用できる (43) 和歌山の花きを使ったハーバリウム (44) 水害の多い上富田に備えておきたいロープでリースを作る
1月	(45) 七草粥+他 (46) 新年会! ○○○お寿司を作ってみよう (47) 食品トレーの絵馬 (48) くだもの王国和歌山 (49) オレンジキャンドル&ミカンアート	(45) 野草に詳しい講師依頼 (46) マイトイレの活用法・トイレの重要性 (47) 食品トレーを絵馬の形にカット (48) 保存食について (49) ミカンの活用法	(45) 身近な食べられる野草や毒草を知る (46) ダイパー(尿とりパット)とカラーゴミ袋でお寿司を作り、マイトイレとして備える (47) 年の初めに、絵馬に家族の防災目標を書き、実現するよう努力する (48) 和歌山のミカンとジャバラでジャム作り (49) ミカンの楽しみ方、活用法を知る
2月	(50) 防災ミニニキザニア (51) DIG&HUG (52) 思いでパウチ	(50) 職業体験 (51) 朝来児童館の図面製作 (52) 家族写真	(50) 様々な職業が災害時にどう役立つのかを知る (51) 朝来児童館が避難所になつたと想定してHUGを行う (52) 家族写真をパウチして備える
3月	(53) バンダナで巾着を作ろう (54) バンダナ&手ぬぐいの使い方 (55) トルコ記念館&くじらの博物館&橋杭岩見学 (56) お疲れ様会	(53) あっこ防災バンダナ (54) あっこ防災手ぬぐいとバンダナ (55) 災害(嵐)とトルコ、日本遺産 (56) 反省会	(53) あっこ防災バンダナ活用法(手伝う・助けを求める) (54) ただの布ではない使い方を知る (55) 和歌山とトルコのつながり、日本遺産について知る (56) ペットボトルのトロフィー製作と賞状授与

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：チャレプラ（1）】※3

タイトル	野草を食べよう 子どもエコクラブ①
実施月日（曜日）	平成 29 年 4 月 8 日（土）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 校外学習・移動教室 体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	食べられる野草と危険な野草を知る 野草を実際に調理して食べてみる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館近辺で子ども達と野草を採取する予定が、雨天のため、午前中に山で大人だけで採取した ・18種の野草（フキ・カタバミ・ハコベ・ドクダミ・イタドリ・タンポポ・ワラビ・ハハコグサ・アザミ・ノビル・セリ・カラスノエンドウ・タラノメ・ヨモギ・スイバ・ユキノシタ・サルトリイバラ・ナノハナ）と見た目が似た毒草もあることを説明 ・私は、すべての野草を生で食べてみた。子ども達には表情で味を想像してもらおう。吐き出すほどまずかったのはドクダミとユキノシタであった ・洗って薄く衣をつけて天ぷらにして塩などで食べる
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・野草 ・塩（いろんな味の塩）・マヨネーズ・酢味噌 ・ざる・箸・菜箸・ボウル・網杓子・大鍋 ・サラダ油（2リットル）、天ぷら粉 ・カセットコンロとガス ・古新聞・キッチンペーパー
参加人数	児童 7 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	サラダ油 2 リットル、天ぷら粉、塩、マヨネーズ、酢味噌 約 1800 円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>説明の頃はイヤそうな顔をしている子もいたが、最終的には全員が喜んで食べていたことにびっくりした。特にワラビはアクが全く気にならず、人気があった。</p> <p>アザミはやや大きすぎて食べると口が痛かった。</p> <p>生ではとても食べられなかった 2 種も天ぷらにするとクセが少なくなることが分かった。</p> <p>子ども達に採取させてあげられなかったのは残念だが、大人だけで山奥に入ったことで、予想よりずっと多くの野草を採取することができた。</p>

	<p>何等かの理由で食糧難の時代がこれからやってくるかもしれない。食べることは生きることなので、これらの知識が役に立つことが来ないことを祈りながら、終了した。</p> <p>【課題】 学校が始まっていないので、新規の子に連絡が出来なかったが、野草の採取時期としてはこのあたりが限界だったため、前年度の登録者を対象に開催した。3月の終わりに年度最後のイベントとして実施しても良かったかもしれない。 ひたすら天ぷらを作っていたら、油の臭いで気分が悪くなった大人がいた。キッチンがないため、教室で作るしかなく、後片づけも大変だった</p>
成果物	野草の天ぷら

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（2）】※3

タイトル	初めまして会 セント・パトリックデイ ペットボトルのプランター作り&花壇に福島のひまわりを植えよう 子どもエコクラブ②
実施月日（曜日）	平成 29 年 4 月 15 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習 その他（ガラクタ工作：朝来児童館エコクラブの活動）
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	アイルランドの行事、セント・パトリックデイについて知り、緑のテーマに沿って緑（ひまわり）を植える 福島ひまわり里親プロジェクトに参加して東日本大震災被災地復興の応援ができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・セント・パトリックデイについて説明（アイルランドにキリスト教を広めた聖人聖パトリックの命日。緑色の物を身につけて祝う日で、「緑の日」とも呼ばれる）（写真で海外の様子を見てもらう：緑色に染まった川、緑色の食べ物、シャムロックなど） ・ペットボトルを切って底に穴を開け、ビニールテープ等で飾り、プランターをつくる。 ・児童館の花壇に緑（福島ひまわり里親プロジェクトのひまわり）を植える ・自分のプランターにはミニひまわりの種を植える ・教室で緑のおやつタイム&自己紹介



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・事前に当日は何でもいいから緑色の物を身に着けて参加するように伝える ・ひまわりはあらかじめポットで発芽させておく ・花壇に石灰と鶏糞を漉き込んでおく ・緑色のお菓子、ジュース（食紅：緑）の購入 ・ペットボトル（1.5lから2l）と飾りの材料 ・緑の衣装等（ルイージやヨッシーの着ぐるみなど）
参加人数	児童 19 人+大人 8 人
経費の総額・内訳概要	鶏糞・肥料・ひまわりの種（福島とミニひまわり）・お菓子・ジュース 約 3000 円
成果と課題	【成果】 まだまだ日本ではなじみの少ないアイルランドのセント・パトリックデイについて知ってもらえることが出来た。 【課題】 アイルランドでは緑のビールを飲むとあったので、サイダーに食紅（緑）で色を付けたら、気持ち悪くて飲めない子がいた。初めから飲めないと言う子には色は付けずに緑の紙コップを渡した。菓子もなるべく緑色の物を準備したが、抹茶味は子どもには人気がなかった。 緑の物を身に着けてくれる子が少なく、緑の集合写真を撮りたかったがイマイチであった。 本来のセント・パトリックデイは3月17日であるため約1か月おくれになってしまうが、緑の日にひまわり等を植えて以後育てるならば、時期的に早すぎるし、年度をまたいでしまうので、3月に開催するのは難しい。
成果物	福島ひまわり里親プロジェクト参加（ひまわりの種採取予定） ペットボトルのプランター

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（3）】※3

タイトル	食品トレーのプレート（家族の避難場所をみんなに分かるように記そう）& トレーで遊ぼう（ネームプレートや風車作り） 子どもエコクラブ③
実施月日（曜日）	平成 29 年 5 月 13 日（土）
実施場所	あっそ児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 その他（ガラクタ工作：朝来児童館エコクラブの活動）

活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	家族の避難場所を書いたプレートを目に留まる所に置くことで、家族全員が意識することが出来る
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	当初は、「子どもの日だ！燃えろファイヤー！火おこし体験&マッチの使い方」の予定だったが、雨天の為変更する ・食品トレーをカッターやハサミで切ってプレートを作り、自分の家族の避難場所を記入する ・出来上がったら、ネームプレートや風車などを作る
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・食品トレー（大き目、細長い物） ・クッキーの型、厚紙で作った型 ・カッター、ハサミ ・古新聞（カッターマット） ・油性マジック ・ひも（毛糸など） ・風車用ストロー ・飾り（リボン・スパンコール・ビーズ他）
参加人数	児童 14 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	購入なし
成果と課題	【成果】 ほとんどの子が家族の避難場所は「朝来小学校」と決めていたが、幼い兄弟や、話し合いに参加していない家族（父親など）にも伝えるように、目に留まる場所に置いておくように伝えた。 トレーで「安否札」を作ってくれた子がいたのでびっくりした。（こちらから指示したわけではない）自分が作ったオリジナルの安否札ならば、大切に、必要な時は必ず使用してくれるだろうと思う。子どものアイデアに感心させられた。 【課題】 避難場所が家族で話し合われているのは良いが、「朝来小学校」だけでは多くの避難者が集まっている状態で家族が合流するのは難しい。たとえば、体育館ならどのあたり、どこの教室、（避難所として機能しており、部屋を割り当てられたなら、それに従う）たとえバラバラに避難していても、決まった時間に特定の場所に集合するなどの方法で家族が集まる事が出来るよう、改めて家に帰ってから話し合うように伝えた。
成果物	家族の避難所が記されたプレート・ネームプレート・トレー風車

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（4）】※3

タイトル	ナショナルトラスト発祥の地！南方熊楠の残した天神崎を歩こう 「天神崎自然観察教室」参加 和歌山ってスゴイ① 子どもエコクラブ④
実施月日（曜日）	平成 29 年 5 月 27 日（土）



実施場所	田辺市 吉野熊野国立公園内 天神崎
担当者または講師	担当者・講師等の区分：主催者（関西広域連合広域環境保全局） 氏 名：幾島浩恵（引率） 所属・役職等：天神崎の自然を大切にする会
所要時間または「コマ数×単位時間」	5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 校外学習・移動教室 体験学習 その他（自然観察教室：朝来児童館エコクラブの活動）
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	ナショナルトラストについて知る（和歌山ってスゴイ） 南方熊楠について知る（和歌山ってスゴイ） 海の生き物、山の生き物について知る 海の近くで地震が起きた時に気を付けることが分かる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・町のバス手配 ・天神崎自然観察教室参加希望者を募り、申し込み ・現地まで引率 ・「天神崎自然観察教室」参加
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食（おにぎり 2 個は準備する：足りない人は持参しても OK） ・お茶、おやつ ・帽子、長袖、長ズボン、タオル、足を保護できる靴 ・必要なら着替え ・網、バケツ等の持参可
参加人数	児童 16 人+大人 6 人
経費の総額・内訳概要	おにぎり一人 2 個（約 5000 円）
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>海のない上富町では、地震の後の津波について意識が低いように感じていた。今回海の近くで遊び、学び、今地震が起きたならどうすべきかを考える機会を持つことができた。</p> <p>避難経路や標高を記した看板を見て、田辺に予想されている津波の高さを知り、その時がきたらどうしたらよいかをその場で考えることができた。</p> <p>当日は強風で子ども 1 名が風にあおられて転倒、けがをした。風の恐ろしさも身をもって体験した。</p> <p>【課題】</p> <p>遅刻、お茶を忘れる子、服装が軽装で岩場には危険な子もいた。いつもの児童館活動とは違い、大勢参加（関西から約 70 名参加）する中では、決まりを守って行動することがより大切だと思う。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (5)】※3

タイトル	夏の避難所の敵！蚊をやっつける 除虫菊で蚊取り線香を作ろう (和歌山県有田市の上山英一郎発明・化学遺産) 和歌山ってスゴイ②
実施月日(曜日)	平成 29 年 6 月 10 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	蚊取り線香の発明者 和歌山出身の上山英一郎氏について知る(和歌山ってスゴイ) 蚊取り線香の原材料が分かる 夏の避難所は、「蚊」に悩まされることが分かる 「蚊」の媒介する病気について知る オリジナルの香取線香を作る
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> 蚊取り線香は、何から作られているか？ 除虫菊の種、花(写真)、葉を見せる 海外では Mosquito coil と呼ばれている 発明者は和歌山出身の上山英一郎氏 なぜこんな形になったのか(長持ちさせるため) 「蚊」が起こす問題、病気について 除虫菊パウダー、たぶ粉を使って蚊取り線香を作る
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	蚊取り線香と台 除虫菊の苗と種(因島観光協会より)、写真 除虫菊パウダー、たぶ粉、水、アロマオイル 紙コップ、割りばし、古新聞、持ち帰り用箱
参加人数	児童 14 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	除虫菊パウダー(900 円)、たぶ粉(1500 円)
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>蚊取り線香が日本発祥、和歌山の人が発明したことを知っている子がいなかったのが、知ってもらえて良かった。 「蚊」に刺されることはただ痒くなるだけでなく、重大な病気を引き起こすことを知ってもらえた。 粘土よりは扱いやすく、細く、小さな線香を作るのは大変そうだったが、器用な子はまるで和菓子のように可愛い線香をたくさん作っていた。</p> <p>【課題】</p>

	<p>パウダーに水を入れて粘土の硬さにするのは、低学年にはやや難しそうだった。</p> <p>あまり大きいと、最後まで燃えないかもしれないが、乾燥に数日が必要なため、確認することができない。</p> <p>火をつける時は必ず大人と一緒にと伝えた。</p>
成果物	オリジナルの蚊取り線香（アロマオイルの香り付き）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（6）】※3

タイトル	和歌山に誇れる保存食！梅干と梅シロップを作ろう（かき氷に梅シロップは最高！熱中症予防にも！）（みなべ・田辺の梅システムは世界農業遺産） 和歌山ってスゴイ③
実施月日（曜日）	平成 29 年 6 月 17 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：深見優 氏・佐多圭一郎 氏 所属・役職等：一般社団法人 日本有機梅協会
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	みなべ・田辺の梅システム…世界農業遺産について知る 梅の効能を知る（熱中用予防、疲労回復効果） 梅干、梅シロップの作り方が分かる 梅が災害時に役立つことが分かる （大規模災害など緊急時に備えて各家庭で備蓄が必要な食材として農林水産省のリストで「梅干」が副菜として位置づけられている）
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・講師による「梅」のお話し ・梅干に適した梅の選別 ・漬物袋の中に梅と塩を混ぜて「梅干」を作る ・タックシールに絵や日付、梅を干すタイミングを書いてラベルを作って漬物袋に貼る ・無農薬・有機栽培の梅を食べてみる（おいしい！） ・梅シロップに適した梅の選別 ・漬物袋の中に梅と砂糖を混ぜて「梅シロップ」を作る ・タックシールに絵や梅シロップの出来上がり時期を書いてラベルを作って漬物袋に貼る ・梅干を漬けた後の梅酢の利用方法について ・梅シロップを漬けた後の梅の利用方法について（ジャム作り） ・梅の収穫の姿で写真撮影

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅一人 250 g ・砂糖梅と同量 ・完熟梅一人 250g ・塩梅の五分之一 ・漬物用袋・爪楊枝・タックシール・爪楊枝・スプーン・紙コップ・スケール・キッチンペーパー・ザル・ボウル ・事前準備(申し込み制 5月12日締切 200円負担・深見梅店指導・無農薬有機梅) ・準備物…子ども 15人分(青梅 4キロ、熟梅 4キロ、砂糖 4キロ、塩 1キロ)
参加人数	児童 14人+大人 5人
経費の総額・内訳概要	無農薬有機梅 8キロ (8000円) さとう、塩 (1200円) 漬物袋 (400円) (1人 200円材料費負担)
成果と課題	<p>【成果】 さすが和歌山県民、多くの子ども達が「梅干」や「梅シロップ」を作ったことがあるとの事。また、全員が梅干が大好きとの事。しかし、それぞれに適した梅の選別は初体験の子が多かった。またそれらだけでなく、梅干を漬けた後に残る「梅酢」や「シロップのあとの梅」の利用法も伝えられてよかった。</p> <p>【課題】 作るだけでなく、消費することが大切。これからの暑い季節の熱中症予防やかき氷には最適なので、今後のイベントでもふるまって消費する機会をふやしたい。</p>
成果物	「梅干」と「梅シロップ」(梅酢と梅ジャムの材料)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (7)】 ※3

タイトル	浮くっちゃボトル (応急用救命代用具) を作って水難事故からみんなを守ろう！ 子どもエコクラブ⑤
実施月日 (曜日)	平成 29 年 6 月 24 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害に役立つ資料・材料づくり

達成目標	身近な物で救命代用品を作ることが出来ることを知り、それを富田川沿いの公園内にある店に設置して頂くことで、万が一の時に利用することができる。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前交渉 (富田川沿いの彦五郎公園内 エフノカッテに浮くっちゃボトルを置いてもらえないか聞く 6月7日了承済み) ・あらかじめ20四角いペットボトル3本の内部に赤スプレーで色を付けておく (乾燥させる必要があるため) ・あらかじめペットボトルをロープで固定しておく (難しく、時間がかかるため) ・当日はおもりの砂を量ってペットボトルに詰める、ロープの収納を数名の子ども達に依頼 ・使い方の説明
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・20 四角いペットボトル×4・赤スプレー・ロープ・おもりの砂・めうち・やすり・スケール ・子ども達に依頼 (あれば20 四角いペットボトル)
参加人数	児童 12 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	赤スプレー、ロープ (1000 円)
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>学校からも近く、普段よく遊んでいる富田川沿いの彦五郎公園内で自分達で作った「浮くっちゃボトル」を設置してもらうことで、少しの安心とこれを使う事態にならないように注意する事、助けを必要としている人がいないか気を配る事ができる。</p> <p>【課題】</p> <p>溺れている人がいたら、助けに行くのではなく、助けを呼んでから浮かぶものを投げる事、自分が溺れた時、浮かぶものに乗るのではなく、抱きかかえてぶら下がるように捕まることなどを説明した。あつてほしくはないが、川遊びが増え水害も起こりやすくなるこれからの季節への心構えになればと思う。</p>
成果物	浮くっちゃボトル (応急用救命代用品)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレンジ (8)】 ※3

タイトル	防さイスリュックを作ろう 子どもエコクラブ⑥
実施月日 (曜日)	平成 29 年 6 月 24 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2 時間



プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害に役立つ資料・材料づくり
達成目標	普段はイスとして使うことができ、災害時にはリュックとして持ち出すことができ、中には災害時に役に立つ物がいっぱい詰まっている「防さイスリュック」を作る
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>(浮くっちゃボトルと同時進行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に不足する消耗品について説明（特にトイレ関係） ・出来るだけ同じ物を1本の牛乳パックに詰め、隙間には古新聞を詰めてセロテープで仮止めする（探す手間を省くため） ・もう1本の牛乳パックに切り込みを入れてかぶせ、ガムテープで固定する ・同じ物を9本作ったら、3×3に重ねてガムテープで固定する ・お尻の当たる部分にクッションになるタオルやトイレットペーパーを詰めて服をかぶせる ・Tシャツの腕の部分、ズボンの足の部分がリュックの肩紐になるように調節して安全ピンで固定する ・イスとして使用できるか、リュックとして背負うことができるか試してもらう。 ・朝来児童館に置いておき、普段は自由にイスとして使ってもらおう。児童館が避難所になった時は中身を使う、また児童館から高台の避難所に避難の必要がある時は背負って持って行って欲しいと伝える。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>10牛乳パック（切り開いてない物）×36本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイトイレの中身（尿とりパット・生理用ナプキン・450ゴミ袋・250買い物袋） ・ガムテープ・ポリ袋・キャンドル・膨らむタオル・使い捨て手袋・歯ブラシ・割りばし・トイレットペーパー・古新聞 ・多め・タオル・手ぬぐい・安全ピン・ロープ・不要な長袖Tシャツと長ズボン
参加人数	児童12人+大人5人
経費の総額・内訳概要	児童館に備蓄してある材料を使用したため、(1000円程度)
成果と課題	<p>【成果】 市販の（椅子としても使えるバッグ）にヒントを得て、牛乳パックのイスを背負えるようにしたら災害時に役立つのではないかと思い製作。劣化しにくい物ばかりを詰めているので、子ども達の近くで使用しながら長く保存できる。（災害用備蓄は子どもの手に届かない屋根裏に保管してある） 避難所になっている児童館だが、避難してきた時に必ず児童館に詳しい大人がいるとは限らない。いざという時に子どもの近くに備蓄があることで、自分達でマイトイレの設置が行える。また、児童館から高台にある朝来小学校に避難の必要がある時は、背負うことでラクに運ぶことができる。</p> <p>【課題】 今の子ども達が児童館に来ることがなくなったとしても、この「防さイスリュック」の存在を伝え続ける必要がある。 「防さイスリュック」を包んだ衣類（ズボン・長袖Tシャツが、有り合わせのもの（作業ズボン等）で、かわいらしくなく、いつか、もう少しおしゃれなイスに変えたいと思う。</p>

	「防さイスリュック」というネーミングはいかがでしょうか？もつとぴったりな良い名前を子ども達に募集中（今の所意見なし）
成果物	防さイスリュック×2

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（9）】※3

タイトル	七夕メッセージ&七夕飾り工作（吹き流し）
実施月日（曜日）	平成29年7月1日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	大切な人に分かりやすいメッセージをのこすことができる
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	<p><u>七夕メッセージ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 七夕のイベントとして、短冊に願い事をひとりずつ書いてもらう。 彦星と織姫に扮した大人が願いごとを読み上げ、願いがかなうように応援する しかし、大切な人（家族）に大事なメッセージを伝えるときは、（たとえば、災害時に伝言版にメッセージを書きのこす時）これではわかりにくいことを説明（日時・名前・誰宛か、が記入されていないものが多い） 5W1Hについて説明（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どのように+誰に） 5W1Hに沿って家族にメッセージを書いてみる（例）7月1日の午後2時、朝来彦五郎は、朝来小学校から、幾島さんの家族と一緒に朝来児童館に避難場所を移動しました。迎えに来てください。朝来家族へ 短冊を笹へ結びつける <p><u>七夕飾り工作（吹き流し）</u> 吹き流し製作</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p><u>七夕メッセージ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 浴衣（男女） 七夕飾り、笹、短冊、ひも、ペン 5W1Hについて説明 <p><u>七夕飾り工作</u></p> <ul style="list-style-type: none"> お花紙 輪ゴム、ワイヤー、ハサミ、のり 吹き流しの印刷データ

参加人数	児童 9 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	お花紙 (300 円程度)
成果と課題	<p>【成果】 情報は、新しい物が優先されるが、伝言に日時のない物が多く見られたため、短冊になぞらえて分かりやすいメッセージを書く練習をした。</p> <p>【課題】 自分ひとりで避難している時、誰の家族と一緒になら安心かということについての説明が難しい。(顔見知りだから必ず安全と言う訳ではないこのご時世) だからこそ、少しでも多くの「安全・安心できるつながり」を作っていく必要がある。</p>
成果物	笹飾り 七夕飾り (吹き流し)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (10)】 ※3

タイトル	安否札を使ってみよう
実施月日 (曜日)	平成 29 年 7 月 1 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	安否札の使い方が分かる
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4~5 名のグループを作る (親戚やご近所さんと言う設定) ・ 安否札の用紙に順番に知らせたいメッセージを書く (例) 朝来彦五郎は 7 月 1 日午後 2 時、朝来小学校に避難します (例) 上富田さくらは 7 月 1 日午後 2 時 10 分、上富田モモコと一緒に上富田救馬の家 (祖父宅) へ避難します
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安否札 ・ 筆記用具

参加人数	児童 9 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 七夕メッセージの後なので、分かりやすいメッセージが書けていた 【課題】 以前は「安否札」を製作するだけで終わってしまっていたので、実際に使用してみたが、子どもにはあまり面白くはなかったようで、だんだんふざけた内容になってしまっていたのが残念だった。
成果物	安否札（書き込み済み）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（11）】 ※3

タイトル	子どもの日だ！燃えろファイヤー！火おこし体験&マッチの使い方 子どもエコクラブ⑦（5月実施予定が雨天の為延期）
実施月日（曜日）	平成 29 年 7 月 8 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災 技術を見につける
達成目標	いろいろな方法で火を作ってみる マッチの火を怖がらずにつけられるようになる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、下記の物を使用した火のおこし方を説明する ・マッチの擦り方の説明 ・火口、火吹き棒の準備 ・外で数人ずつのグループに分かれ、それぞれに大人がついて火おこし体験する ・火種ができれば、自分の火口に移し、火吹き棒（ストローをつないで長くしたもの）で吹いて炎にできれば成功
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<u>太陽光使用</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 500ml 丸いペットボトルと水 ・ 懐中電灯（集光板） ・ 虫眼鏡 ・ アルミ缶と金属磨き ・ マッチと蚊取り線香を黒マジックで塗ったもの <u>その他の方法</u>



	<ul style="list-style-type: none"> ・火打石 ・紐切り式火おこしセット ・舞ぎり式火おこしセット ・ファイヤースターター ・スチールウールとティッシュと 9V 電池 ・スチールウールと単 1 アルカリ電池×3 ・空き缶と麻縄と消し炭 (火口) ・ストロー×2 (火吹き棒) <p>他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍手 ・バケツ+水
参加人数	児童 9 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	新規に買い足したものはなし
成果と課題	<p>【成果】 初めは恐々マッチを擦っていた子ども達も数回で慣れ、安心してみていられるほどになった。 梅雨明け前で湿度が高く、薄曇りで太陽光も弱かったため、太陽光による火おこしは成功しなかったのが残念だった。 その他の方法による火おこしでは、電池によるものが簡単で、数人が炎にすることに成功した。 「火」の面白さと同時に怖さも伝え、一人では絶対にやってみてはいけないことを伝えた。</p> <p>【課題】 本来は 5 月に実施予定だったが、雨天の為延期になった 以前は、「太陽光を使用した火おこし」と「その他の方法で火おこし」をそれぞれ 2 時間かけて 2 回に分けて実施した。時間にゆとりがあったため、金属磨きでアルミ缶を磨いたり、火口作りも麻縄をほぐすところから作った。また、太陽光火おこしに適した日を選択することもできたが、やはり 1 回では時間不足だった。 こちらがあらかじめ準備することが多すぎ、子ども達も、もっとやってみたいという思いが残ったと思う。 天候や湿度などの条件が良ければ、全員に成功体験させてあげられたと思う。 太陽光が強ければ、マッチだけでなく蚊取り線香にも火がつけられ、火種として使用できるが、今回は無理だった。 火傷の予防と恐怖感の軽減の為、軍手を持参させたが、以前、手を放してもマッチが軍手に絡まって離れないこともあり、素手の方が安全かもしれない。軍手を使用している子どもにこそ注意が必要。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください

【実践プログラム番号：チャレプラ (12)】 ※3

タイトル	ロケットストーブの使い方 子どもエコクラブ⑧
実施月日 (曜日)	平成 29 年 7 月 8 日 (土)
実施場所	朝来児童館

担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	ロケットストーブの使い方が分かる
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ロケットストーブの原理と説明（なぜこの形なのか） ・着火の方法 ・フライパンの上でソーセージを焼く ・暑いので、かき氷も同時進行
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ロケットストーブ ・燃やすもの（新聞・段ボール・枯れ木）とマッチ ・食材（串つきソーセージ） ・フライパン ・かき氷機と氷とシロップ ・上富田町の町の木であるヤマモモで作ったシロップ ・紙コップ、ストロースプーン
参加人数	児童 9 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	ソーセージ（600 円程度） かき氷シロップ（400 円程度）
成果と課題	<p>【成果】 ロケットストーブと言う聞き慣れない物を見て、使うことができた。熱が出る所が集中しているので、フライパンや鍋を使用しての調理が簡単。</p> <p>【課題】 たき火と比べると調理がしやすく、煙も少なく安全だということが分かるが、たき火をほとんど経験したことのない子ども達にそれが分かっただろうか？</p>
成果物	焼きソーセージ かき氷（山桃シロップのかき氷他）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号：チャレプラ (13)】 ※3

タイトル	「あいサポーター」になろう (様々な障害の特性を理解し、障害のある人が困っている時に必要な配慮が出来る人、また、あいサポート運動を周囲に周知していく人が「あいサポーター」)
実施月日 (曜日)	平成 29 年 7 月 22 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：あいサポーター研修 講師 氏 名： 秋月清秀氏 所属・役職等： 和歌山県 福祉保健部 障害福祉課
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	その他
達成目標	あいサポーターになることで、災害時に避難所に避難してきた障がい者に気が付き、適切な配慮が出来るようになる
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	あいサポーター研修講師による進行 ・手話による自己紹介 ・スライドによる障害の説明 ・DVD 視聴 ・質疑応答
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・あいサポーター研修申し込み ・プロジェクターとスクリーン ・DVDが見られる準備 ・子どもと保護者に参加呼びかけ ・上富田町障害者会の皆さんに参加お願い
参加人数	児童 10 人+大人 10 人+学生 2 人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 上富田町身体障害者会の方にも参加して頂いたことで、自分達の身の周りにも支援を必要としている人がたくさんいらっしゃる事がわかった。 【課題】 12 種類の障害を説明した DVD であったが、子ども達には理解が難しいと思われる物も多く、「視覚障がい」「聴覚・言語障がい」「肢体不自由」「発達障がい」に限定して視聴してもらった。 もともと大人向けの研修で、分かりやすく噛み砕いた説明を心がけてくれたが、やはり子ども達には難しかったと思う。 上富田町障害者会の皆さんは、年に一度朝来小学校に行って出前授業をしてくれているが、子ども達と障害者の方が接する機会はずっと多くある方がよいと思う。

成果物	あいサポーターバッジを全員に頂いた
------------	-------------------

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (14)】 ※3

タイトル	「ロービジョン」体験&目隠しでおやつ
実施月日 (曜日)	平成 29 年 7 月 22 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	その他
達成目標	身近に住む障害のある方との交流、視覚障害の方のお話を聞き、実際に目が見えないと、どんなことが困るかを体験する。
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ロービジョン体験キットを使って「視覚障害」にもいろいろな見え方があることを体験する。 ・視覚障害 (全盲) の方からお話を聞く ・目隠しをして歩いてみる ・友達とペアになってガイドも体験する ・目隠しをしておやつを食べてみる (何時の方向に〇〇があるという方法を教わる)
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・上富田町身体障害者会の方へ参加依頼 ・目隠し用手ぬぐい ・ロービジョン体験キット ・豊橋市障害者福祉会館 さくらピア製作の「障害者が避難所に来たら」冊子紹介
参加人数	児童 10 人+大人 11 人
経費の総額・内訳概要	おやつ代 (約 2000 円)
成果と課題	<p>【成果】 視覚障害の方が困る事、支援の方法を知り、実際に目隠しをして行動することで、視覚障害の方の気持ちが理解できた。</p> <p>【課題】 初めはどうすればよいか分からないためか、避けるような行動も見られたが、徐々に一緒に行動できるようになった。今回 1 回限りではなく、今後もこのような交流を続けていきたい。 可能なら、年齢の近い視覚障害の子どもさんとなら、もっと仲良くなる事が出来たかもしれない。</p>

成果物	なし
------------	----

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (15)】※3

タイトル	災害時施設状況伝達横断幕 (SOS シート) 製作
実施月日 (曜日)	平成 29 年 7 月 26 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	SOS シートを知り、使うことができる
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ製作しておいた SOS シートをもとにもう一枚は子ども達に製作してもらう ・直線の道を歩幅で大体の距離を測っておき、どこまでシートの文字を判読できるか実験する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・下記材料購入 ・あらかじめ SOS シートを 1 枚製作しておく ・ピクトグラムを A3 用紙に拡大コピー ・ピクトグラムをラミネート加工 ・ものさし・ハサミ・巻尺
参加人数	児童 7 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1.8m×2.7mオレンジシート 700 円 ・ビニールテープ白 4 cm幅×2 216 円 ・ビニールテープ黒 4 cm幅×1 108 円 ・ビニールテープ透明 2 センチ幅×3 108 円 ・ラミネート用フィルム A3×2 袋 1436 円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>SOS シートの見本を作っていたことで、子ども達だけでスムーズに作ることが出来た。</p> <p>ピクトグラムについても、概ね絵柄の意味を把握することができていた。</p> <p>市販されている SOS シートは 15 万円する。今回のシートはラミネートを使わなければ 1000 円ほどで作ることが出来るので、今後備蓄し</p>

	<p>てもらえる所があれば、増産して避難所に置いてもらうことも考えたい。</p> <p>【課題】</p> <p>SOS シートの数字の部分は、150mでもなんとか読むことが出来たが、ピクトグラムは50メートルが限界であった。実際にヘリコプターなどから見る場合は、双眼鏡を使用すると思われるので、もう少し遠くても判読できるのではないかと思う。</p> <p>10月29日の上富田町防災訓練で実際にヘリコプターから判読できるかどうか実験してもらえる事になっている。製作した子ども達と一緒に参加する予定。</p>
成果物	SOS シート

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (16)】 ※3

タイトル	防災ビンゴ
実施月日 (曜日)	平成 29 年 7 月 26 日 (水)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	防災用語の意味を知る
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災用語でビンゴ用紙を作っておく (用語の説明もできるように予習しておく) ・子ども達に自分で切り取ってならびかえてもらう。 ・選んだ言葉の説明をその都度していく ・ビンゴした子どもから景品を選ぶ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>防災用語 9 種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅困難者 (きたくこんなんしゃ)・マグニチュードと震度 (しんど)・ライフライン・要配慮者 (ようはいりよしゃ)・災害用伝言 (さいがいようでんごん) ダイアル・エコノミークラス症候群 (しょうこうぐん)・マイトイレ・災害時帰宅支援ステーション (災害時帰宅支援)・避難行動要支援者 (ひなんこうどうようしえんしゃ) <p>を入れたビンゴカード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景品
参加人数	児童 7 人+大人 4 人

経費の総額・内訳概要	なし（自宅にあった物を景品にしたため）
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>子ども達にはあまりなじみのない防災用語の意味を知ることができた（かな？）</p> <p>特に、混同しやすい「マグニチュード」と「震度」の違いを理解してもらえたのが良かった</p> <p>【課題】</p> <p>このあたりに起こりやすい災害は水害なので、水害に関する用語のビンゴも必要だと思った</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（17）】※3

タイトル	牛乳パックを使った一人用非常食セットを作ろう 子どもエコクラブ⑨
実施月日（曜日）	平成 29 年 8 月 2 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	実際に非常食を詰めた牛乳パックを準備して、どのような物が必要か知る。これを 10 月の「避難所宿泊体験」に使用する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・準備した「一人用非常食セット」の中身をそれぞれで決まった数を集めて、牛乳パックに詰める ・この中で一番賞味期限の短い物（野菜ジュース 11 月 6 日）の期限と自分の名前を牛乳パックに書いて、ガムテープで口を閉じる ・今日来ていないが、「避難所宿泊体験」に参加する友達も分も協力して作る （中身の使い方は「避難所宿泊体験」で説明予定）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の準備（あれば牛乳パック 切り開いていない物 1 本・非常食として中に入れたい物 賞味期限が 10 月いっぱいあるもの、小さい物に限る） ・準備物（牛乳パック 10×20 本・ガムテープ・油性マジック） ・準備物中身（新聞・野菜ジュース 100ml・ビスコ×2 個入り・飴・キャラメル・ゼリー×2・スープ春さめ・コーンスープ・ふりかけ・割りばし・おしぼり・ポケットティッシュ（トイレに流せる物）・絆創膏・マスク・ポリ袋×2・250 買い物袋・ゴミ袋 450×2・ジッパー

	袋) 各 20 人分
参加人数	児童 6 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	中に詰めるもの 約 5500 円
成果と課題	<p>【成果】 自分が準備した物を実際に「避難所宿泊体験」で使用できるのが楽しみな様子 「避難所宿泊体験」では、白米、レトルトカレー以外の準備をせず、後は今回作った「一人用非常食セット」の食糧で賄う予定。 また、食器もこの牛乳パックや新聞、ポリ袋等を使用して作り、サバメシやホットドッグの燃料もこれを使用する。 ハイゼックス炊飯袋だけでなく、ポリ袋を使った調理もする。 トイレトペーパーも撤去し、この中の物を使用する。 寒い時はゴミ袋や新聞を使って防寒する。</p> <p>【課題】 食料を準備すると、お金がかかるし、賞味期限までには開封しなければならないので、頻繁に作り替える必要があり手間がかかる。</p>
成果物	一人用非常食セット

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (18)】 ※3

タイトル	暑中お見舞いカードを作って家族に大切な事を伝えよう
実施月日（曜日）	平成 29 年 8 月 2 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	手紙（暑中お見舞いなど）を書く機会が減った子ども達に家族に向けてカードを作り、その中に災害時の約束ごとを書くことで、家族の防災意識が高まる。また、家の住所を再確認する。



実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・暑中お見舞いとは？ ・封書、はがきの送料を知ってるかい？ ・自分の家の住所は書けるかな？ ・家族にお礼と、家族の集まる避難場所について一言記入すること
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の準備（自分の家の住所がわかるように聞いておく） ・準備物（画用紙・コピー用紙・のり・両面テープ・飾り・折り紙）
参加人数	児童 6 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	なし（児童館にある物を使用）
成果と課題	<p>【成果】 家族の体調などを気遣うと同時に、いつもお世話になっている感謝の気持ちを伝え、さらにいざという時の避難場所について再確認できた。</p> <p>【課題】 自分の家の住所が分からない子（低学年）がいる。また、暑中お見舞いを書いたことがある子は一人もいなかった。 時代とともに廃れてしまうのは仕方がないのかもしれないが、基本のはがき、封書の書き方は覚えておいてほしいと思う。</p>
成果物	暑中お見舞いカード

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（19）】※3

タイトル	シニアホーム鯨洋との交流 お年寄りが災害時に困ることを聞いてみよう&「熊野の神の使い八咫鳥」製作 和歌山ってスゴイ④ 子どもエコクラブ⑩
実施月日（曜日）	平成 29 年 8 月 5 日（土）
実施場所	シニアホーム鯨洋
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	校外学習
活動目的※5	その他



達成目標	<p>今までに2回張子に人形を頂いて、お礼の色紙を渡していたが、直接お会いする機会がなかった。今回、「シニアホーム鯨洋」を訪問させて頂き、感謝をこめて歌を歌い、一緒に「八咫鳥」の張子を完成させる中で、お年寄りが災害時に困ることを直接教えて頂き、自分達にできることを深く考える機会にする</p>
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館に集合する児童は安全監理員が車で送迎 ・シニアホーム鯨洋に集合する児童は看板の前で待ち合わせ ・14:00~14:20 挨拶と歌のプレゼント(「花は咲く」「みかんの花咲く丘」「鯨洋の藤花」「朝来小学校校歌」(歌詞を配り、一緒に歌う)) ・14:20~14:30 八咫鳥について説明(JFA財団法人日本サッカー協会のシンボルマークは八咫鳥 神武天皇を道案内した神の使い) ・14:30~16:00 シニアホーム鯨洋の皆さんが作って下さった八咫鳥を飾り付けする ・鯨洋のみなさんとお話しをしながら製作 ・鯨洋のみなさんに「災害時に困ること」について質問 ・「歩けない(車いす使用中)から、逃げられない」 ・「トイレが心配(車いす)洋式でないと使うことができない」 ・「自分では何にもできないから助けてもらおうしかない」 <p>などのお話しを聞かせていただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアホーム鯨洋で準備して下さったジュースやお菓子を一緒に頂く ・集合写真 お礼 解散
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・車同乗承諾書 ・集合場所の案内と参加者確認 ・歌の練習(歌詞カード) ・紀伊民報取材 <p>布切りハサミ・木工用ボンド・両面テープ・動眼・フェルト・布・スパンコール・モール・リボンなどのかざり・古新聞</p>
参加人数	<p>児童7人+大人4人</p>
経費の総額・内訳概要	<p>なし</p>
成果と課題	<p>【成果】 お年寄りや身体の不自由な人が困ることについて、私達から説明することもできるが、実際にその状態の方から直接お話しを伺うことで、より心に深く残ったと思われる。 その時が来たとき、「こんなことで困っているのではないだろうか?」と気づくことができる人になってほしい。 「熊野の神の使い八咫鳥」を一緒に製作し、手元に置いておくことで、今日の交流を忘れることなく、また、八咫鳥について知ることができた。 紀伊民報(新聞)の取材もあり、より記念に残る交流となった。</p> <p>【課題】 参加者が多い方がよかったので、初めて「車同乗承諾書」を作ったが、かなり早めに準備しなければならない。 訪問施設に依頼、予定合わせ、あいさつ、打ち合わせ、準備等、思ったより大変だったが施設の皆さんにも喜んでもらえたようで嬉しかった。 「鯨洋」入居者さまの体調も考慮しなければならないが、2時間では時間不足に感じた。</p>
成果物	<p>張子の八咫鳥</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (20)】※3

タイトル	彦五郎顕彰会参加&彦五郎物語&エフノカッテに「浮くっちゃボトル」贈呈 和歌山ってスゴイ⑤
実施月日（曜日）	平成 29 年 8 月 19 日（土）
実施場所	彦五郎公園
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	彦五郎顕彰会（慰霊祭）に参加し、彦五郎物語を知ること、昔この地域に実際にあった大水害について知り、水害の対策について考えることができる。 また、以前みんなで製作した「浮くっちゃボトル」を富田川沿いの彦五郎公園内「エフノカッテ」で預かってもらうことで、水害や水難事故の時にそれを使用して救助できる可能性がある。 「彦五郎堤防」は 2014 年 8 月 28 日に「南紀熊野ジオパーク」に認定されている。身近にあるジオパークについて知り、地元への愛着を育てる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・「いっちょやっつろう会」主催の「彦五郎顕彰会（慰霊祭）」に参加…住職による読経 ・餅まき、お菓子まきに参加 ・「彦五郎物語」の主人公山本哲也さんより「彦五郎物語」のあらすじを教える。 <p>その昔、富田川は洪水が多く、村人や田畑や牛馬に被害があり、しっかりした堤防を作らねばなるまいと話し合っていました。そんなある夜、夢枕に神様が現れ、「堤防に人柱を建てよ。そうすれば、どんな大雨にも崩れないものになるだろう。」と告げたということです。彦五郎は自ら進んで人柱となりました。堤防はそのあと切れないうようになったと伝えられています。現在もその堤は彦五郎堤防と呼ばれ、その由来を銘記した彦五郎の石碑が建っています。</p> <p>残念ながら、その後も何度も富田川は洪水により決壊しており、明治の大水害や平成 23 年の紀伊半島大水害（台風第 12 号）でも大きな被害がでている。</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・「いっちょやっつろう会」の主催者と連絡をとり、ふれあいルームの子ども達を参加させて頂く ・車同乗承諾書を配布し、当日現地集合できない子を送迎する ・事前に彦五郎公園内にあるカフェ「エフノカッテ」と連絡をとり、「浮くっちゃボトル」を設置の了承を頂く。 ・子ども達と「エフノカッテ」の店主さんに「浮くっちゃボトル」を渡す。



参加人数	児童 10 人+大人 6 人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 「彦五郎物語」を知っている子は多かったが、ただの物語ではなく、実際に起こった水害により、多くの死者が出ており、亡くなった方を弔うために今もまだこうして慰霊祭を行っている。慰霊祭に参加したことで、現実味を持って水害の恐ろしさを感じることが出来たと思われる。</p> <p>また、公園近くの水辺で水難事故を発見した場合、「エフノカッテ」に「浮くっちゃボトル」があるので、それを使って救助することが出来るかもしれない。</p> <p>【課題】 上富田では「町民創作劇 彦五郎物語」が上演されるので、町民すべてに見てもらいたい。アウトリーチなどの手法でせめて小学生には見せてあげてほしい。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (21)】 ※3

タイトル	熱中症予防「新聞の帽子」 子どもエコクラブ⑩
実施月日（曜日）	平成 29 年 8 月 19 日（土）
実施場所	彦五郎公園
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	校外学習・移動教室
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	熱中症予防のための帽子を身の周りにある古新聞で作ることが出来る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場は熱中症の危険性が高まる。外出時には帽子を持参したいが災害時には持ち出すことが出来ないことも考えられる。 ・古新聞を使ってハンチングキャップを作る。

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・古新聞×1人1枚 ・新聞の帽子的折り方
参加人数	児童 10 人+大人 6 人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 全員がほとんど手伝うことなくハンチングキャップを作りあげた。気に入ってそのままずっと被っている子もいた。</p> <p>【課題】 作り方なしで作るのは難しいと思う。もう少し簡単な帽子を、外出の機会あるごとに繰り返してみた方が良いかもしれない。</p>
成果物	新聞の帽子

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (22)】 ※3

タイトル	あなたの情報はどこにある？「緊急情報キット&上富田の木山桃マグネット」製作（ペットボトルのケースと山桃マグネット） 和歌山ってスゴイ⑥ 子どもエコクラブ⑫
実施月日（曜日）	平成 29 年 8 月 23 日（水）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	上富田ではまだ普及していない「救急医療情報キット」（呼び方は各種あり）をリサイクル工作で作り、いざという時に大切な情報を正しく伝えられるように準備する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と高齢の親族 2 人だけで過ごしている時、急に親族が倒れたら、どうする？ ・救急車を呼ぶ。でも救急隊の質問に答えられるか？（通っている病院、他の親族の連絡先、飲んでいる薬など） ・そんな時に冷蔵庫に「緊急情報キット」があれば安心。上富田にはまだ配布されていないので、上富田らしいキットと、キットが冷



	蔵庫にあることを知らせるマグネットを作る。マグネットは「ホワイトボードマグネットシート」を使用し、普段からメモ書きとして使えるようにする。できれば「上富田ご当地ナンバープレートを元にしたデザインとして、上富田らしさをアピールする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・子ども達の準備物（あれば 500 ミリペットボトル 丸い物が良いフタ付き） ・準備物（ペットボトル・ファスナー・ホッチキスと針 HD-35（ペットボトルに使えるもの）・ビニールテープ・両面テープ・飾り・緊急情報の用紙・ホワイトボードマグネットシート・油性ペン・赤ボンボン・緑フェルト・マジックテープ）
参加人数	児童 5 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	購入はホワイトボードマグネットシートのみ 300 円程度
成果と課題	【成果】 可愛らしく上富田らしい「キット」と「マグネット」が出来た。これの重要性はまだ小学生には理解が難しいかもしれないが、これを準備しておくことで、家族を守ることが出来る可能性が高くなる。また、非常持ち出し袋や緊急連絡先を準備できていなくても、「キット」の中に予備の薬なども入れておくことで、災害時に持ち出して役立てることもできる。 【課題】 前述のように、上富田町ではまだ「キット」の配布がない。できれば、全世帯に配布して、記入、保管してもらいたいと思っていたら、ある町内会で試験的に配布してみたいという案があった。可能であれば、これらの分をふれあいルームの子ども達が準備して、子ども達から必要性、重要性を伝えてもらえるようになれば、受けとった方も、めんどろがらずに準備してくれるのではないだろうか？今後の計画の一つとして話を進めていきたい。
成果物	「上富田緊急情報キット」と「上富田ご当地ナンバープレートマグネットシート」 自分用にペットボトルの小物入れ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (23)】 ※3

タイトル	味噌汁で元気 100 倍！「みそまる」と「MISO de SMILE」づくり 和歌山ってスゴイ⑦
実施月日（曜日）	平成 29 年 9 月 2 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習



活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	日本の食卓には欠かせない味噌汁の材料の多くが和歌山発祥である事を知り、それらの材料を使って保存もできるカワイイ味噌汁の素（「みそまる」と「MISO de SMILE」）をつくる 朝来小学校 5 年生で、「稲村の火の館」見学に行くが、中学の国語の教科書にも載っている「濱口梧陵」の偉大さと醤油と味噌の関係を知る
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	「金山寺味噌と醤油」…和歌山県印南・湯浅が発祥の地（H29. 4. 28 日本遺産に認定） 広川のヤマサ醤油を創業したのは「稲村の火」で有名な濱口梧陵（7 代目）…安政南海地震の時、大津波が来ることを予想して、稲束に火をつけて逃げる方向を知らせ、村民の命を救ったといわれている。その後も私財を投じて堤防を作らせることで、村民は仕事と金銭を得ることができ、広村（現広川）を立て直すだけでなく、次の昭和南海地震津波からも被害を減らし、村を守ることができた。 2015 年 12 月 4 日国連総会第 2 委員会は日本を含む 142 か国の提案により、この逸話のもととなった 11 月 5 日を「世界津波の日」に制定することを全会一致で決めた 「鯉節」…印南町の角屋甚太郎が鯉の保存方法として考案 「高野豆腐」…鎌倉時代の精進料理&保存食 高野山発祥 ・これらの学習をした後「みそまる」と「MISO de SMILE」のつくり方説明 （丸い麩に爪楊枝の背で穴を開け、味噌を少しつけて黒ゴマをはめ込み、目玉とする…大人が準備） ・自由に製作してもらおう（不潔にならないように注意） ・そのうち一つを作って飲む。 ・保存方法の説明（冷蔵庫なら 1 週間、冷凍庫なら 1 か月）ただし、暑い時期なので、出来るだけ早く消費するように伝える。 ・手づくり高野豆腐の試食（1 回凍らせたものと 2 回のもの）…寒い所で凍結と乾燥をくりかえすことで高野豆腐になること、地域によって呼び名が異なる（凍み豆腐・凍り豆腐など）事を説明。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	準備物（みそ・金山寺味噌・高野豆腐・鯉節・乾燥わかめ・麩（2 種類）・ドライネギ・切干大根・とろろ昆布・黒ゴマ・プラスプーン・ラップ・セロファン・モール・爪楊枝・使い捨て手袋・割りばし）
参加人数	児童 9 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	食材・材料（あるものは持参したので）約 1600 円
成果と課題	【成果】 ・災害時の炊き出しとしてよく作られるものに「トン汁」がある。小学 3 年生の国語「すがたをかえる大豆」で学んだように、大豆の栄養、保存、加工等の素晴らしさ、を再認識して、災害時にも体調を壊さないように気を付けることができる。 ・（金山寺）味噌と醤油と稲村の火、これらが和歌山発祥であることを知り、誇りを持つことができた。 【課題】 金山寺味噌は野菜の入ったおかず味噌であるから、「味噌汁」製作は関連性からは少し無理があったかもしれない。今回購入した「金山寺味噌」は、10 月の「避難所宿泊体験」の時のおにぎりと一緒に試食してもらおう予定である。
成果物	「みそまる」と「MISO de SMILE」

- ※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (24)】 ※3

タイトル	非常食の試食
実施月日(曜日)	平成29年9月2日(土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	災害時は普段食べている物とは異なる物を食べることになるかもしれない。今回「5年保存 缶入りパン」の提供があったので、一度食べてみることで災害時にも抵抗なく食べることが出来ると思われる。
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・「5年保存 缶入りパン」の説明を読む ・中身を取り出し試食する ・感想を聞く
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	「5年保存 缶入りパン」2種類
参加人数	児童9人+大人4人
経費の総額・内訳概要	無償提供あり
成果と課題	<p>【成果】 「ニオイが苦手な食べられない」という子と「美味しい」という子がいた。苦手な事が分かれば、事前に他の非常食を準備して行うことが出来るので、体験してみて良かった。</p> <p>【課題】 缶のフタはプルトップのようで缶切り不要だったが、子ども達は開けるのにやや苦勞していた。 缶切りタイプなら、開けられないのではないか？缶切りの練習も必要かもしれない。 最近、初めて口にする物を拒む子も多くなってきた。数年前には、</p>



	もっと多くの種類の非常食を試食したことがあるので、α米や餅、各種缶詰のおかずの試食も、機会あればもう一度実施して、非常時に安心して食べられるようにしたい。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (25) ～ (35)】※3

タイトル	避難所宿泊体験 (チャレプラ (25) ～ (35) まで同時実施)
実施月日 (曜日)	平成 29 年 10 月 7 日 (土) ～ 8 (日)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	16 時間半
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習 避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	災害時に避難所となる「あっそ児童館」で被災時を想定した一泊宿泊体験を行うことで、実際におきる「困難なこと」を知り、それに対処する方法を学ぶ
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	<p>(25) 避難所宿泊体験…1泊2日 (8年目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牛乳パックを使った一人用非常食セット」を開けて、中に入っている物がどんな役に立つか考える 中身 (新聞…トイレ、スリッパ、シート、防寒、布団・ポリ袋…ポリ袋調理、手袋・250 買い物袋…トイレ、荷物をまとめる、運ぶ、オムツ、手の骨折の固定・ゴミ袋 450…レインコート他) 食料他 (野菜ジュース・ビスコ・飴・キャラメル・ゼリー・スープ 春さめ・コーンスープ・ふりかけ・割りばし・おしぼり・ポケットティッシュ・絆創膏・マスク・ジッパー袋) …どれが一番良かったか? ・ハイゼックス炊飯袋で作ったごはんを金山寺味噌で食べてみる。 <p>(26) 手作りスリッパで足を守ろう&たまごのカラ踏み体験…新聞・段ボール・ペットボトル・牛乳パック 子どもエコクラブ⑧</p> <p>(27) ごはんの水加減を知ってるかい?…炊飯器も計量カップもない時はどうしよう?</p> <p>(28) ハイゼックス炊飯袋とポリ袋の使い方…ハイゼックス・ポリ袋で和歌山の郷土食「おかいさん」、「白ごはん」を作る (ホットケーキ) 和歌山ってスゴイ⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイゼックス炊飯袋で作ったごはんを金山寺味噌で食べてみる。

(29) 牛乳パックと新聞紙の食器作り 子どもエコクラブ⑭

(30) 海外の被災地について (4か国目) (中国四川大地震)

(31) 要配慮者へ 小学生の私達にもできること

- ・車いすの使い方、手伝い方
- ・「やさしい日本語」でわかりやすく伝えることができる (ベトナム人が参加してくれていたためベトナム語)
- ・支援バンダナ
- ・手話と英語で「何かお手伝いしましょうか?」「Do you need help?」と言うことが出来る
- ・ガイドロープ設置
- ・ロービジョン体験で学んだことを生かす
- ・筆記又は手のひら書きで伝える
- ・「あいさポーター」としての知識を生かして困っている人はいないか周囲を見渡そう (気づいたことを大人に知らせる)

(32) 段ボールハウスを作ってみよう

(33) 牛乳パックでホットドッグ 子どもエコクラブ⑮

(34) お湯を使わないゆでたまご

(35) ポリ袋レシピ…キャベツとシーチキンでおかず作り

「避難所体験」のタイムスケジュール

(25) 避難所宿泊体験

1日目 10月7日(土) 16:30 朝来児童館集合 (子ども13名 大人7名)

16:30 ①説明

- ・水の使い方について
 - ペットボトル大に名前を書く
 - 水を入れる (その後、蛇口に使用禁止の紙を貼る)
 - 手洗い、洗面、調理などすべてペットボトルの水を使うこと。無くなったらまた水を入れても良いが、何回入れたか覚えておくこと。
- 水の使用を制限はしなくていい。蛇口からの水が使えない不便さを体験してほしいのと、どのくらいの水を使っているか測定したいから。

・今回の状況

家族で家に居る時、大地震にあう
頭を守って揺れを過ぎた後、足元に気をつけながら、安否札のとおりブレーカーを落とし、非常持ち出し袋を持って、(中に一人用非常食セットが入っている)
隣近所に声をかけ、朝来小学校に避難する。(津波避難指示が出ている)
すごい人の中、一日朝来小学校で過ごす。
もう津波の危険は無いという情報があったので、家族と一緒に一度家に帰る。
富田川の付近は津波の被害にあった所もあるようだ。
自分の家は…津波に流されている、ぺちゃんこ、家事で燃えている、



水浸し…

親は、家の片付けをするために家に残り、子ども達は朝来児童館で待機するように言われる。

朝来児童館…電気、ガス、水は使えないが、建物は無傷。

自分たちがほぼ一番乗りだった。これから田辺や白浜から避難してくる人のために、自分たちに出来る事を見つけよう。

(26) 手づくりスリッパで足を守ろう (朝来児童館到着したが、スリッパが足りない。自分の足は自分で守る)

・新聞スリッパと段ボールスリッパの製作

⇒子ども達が自分で考えて食器用に持参した牛乳パックでスリッパを作った。

(27) ごはんの水加減を知ってるかい？

・クイズ: 鍋に適当に入っていた米にどのくらいの水が必要か？ (指1関節又は手のひらが沈むくらい)

・クイズ: コップ1杯の米にどのくらいの水が必要か？ (コップ1+少し)

(28) ハイゼックス炊飯袋とポリ袋の使い方

17:00 ②夕食作り

・1名右手に三角巾を使用 (利き手を使わない)

・1名…入れ歯を持ち出せなかった高齢者 (足腰も悪い)

・ハイゼックスめし袋の準備 (一袋 0.5 合、1 人で一袋) 名前を書く

・普通のポリ袋でも準備する

・高齢者には茶がゆを作る

・水を出し合って鍋に湯を沸かす

・ご飯 (ハイゼックス) を3つの鍋で茹で、取り出した後、残り湯でレトルトカレー又はハヤシを温める (残り湯でお茶やスープなども作ることが出来る)

(29) 牛乳パックと新聞紙の食器作り

・牛乳パックで食器 (皿、スプーン、コップは任意) を作り、ラップを敷いて食べる (ハイゼックスを切り開いてそのままラップの代わりにすることもできる)

・食事中は電気を消す (懐中電灯の上にペットボトル・買い物袋等でランタンにする)

18:30 ③食事をしながらスライド鑑賞

(30) 海外の被災地について (中国四川大地震)

(31) 要配慮者へ 小学生の私達にもできること

19:30 ⑤災害時要援護者について

・Please tell me if you need help. Do you need help?

・Can I help you?

・手話 (何かお手伝いしましょうか?)

・医療・支援バンダナについて

・ベトナム人が避難所に来た。「やさしい日本語」を使ってベトナムのことを教えてもらおう

19:50 ④寝具作り

(32) 段ボールハウスを作ってみよう

・段ボール、古新聞を使って寝るところを作る（避難所の一人あたりのスペースは1.1～1.7平方メートル約新聞紙3枚程度）バスタオル2枚使用可

・大人と希望者はバスタオルなしで寝る

21:00 ⑦洗面、歯磨き（ペットボトルの水で）、就寝

2日目 10月8日（日） 9時頃解散予定

6:30 ①起床・洗面（ペットボトルの水で）

6:45 ②寝具（段ボール、古新聞）片付け（リサイクルに出せるように）

7:00 ③朝食づくり

(33) 牛乳パックでホットドッグ

・ホットドッグ班（ホットドッグ用パンに魚肉ソーセージとケチャップを挟み、アルミホイルで二重にくるんで牛乳パックに入れ、外で燃やす

(34) お湯を使わないゆでたまご

・ゆで玉子班（水を使わないでゆで卵）一人1個（たまごを新聞紙で包んでから、濡らして絞り、アルミホイルで包む。鍋に入れ、フタをして火にかける…大人管理）

(35) ポリ袋レシピ

・ポリ袋にシーチキンとキャベツと塩、しょうゆを入れ、茹でておかずを作る

8:20 ⑧一泊避難所で過ごしてみて…（感想、アンケート記入）

・防災教室をするきっかけ

・6年生になったら、語り部に行く

・ここは津波の被害の起きる可能性は少ないが、水害の可能性は高い。どちらも「早く高台に避難する」事が大切。津波は「急いで」水害は「事前に」

・上富田町は田辺や白浜からの被災者を受け入れる可能性がある。その時の避難所での行動を経験したり考えたりして、身につけておいてほしい。

・被災者を助けたり、手伝ったりするためには？（自分がけがをせず、生きておくこと）そのためには、「想定にとらわれるな」大きな地震があれば私は高台に避難する。私の家族はそうすると決めている。

・逃げて、津波や水害がなかったら、なんて言う？「被害がなくて本当に良かった、次もみんなで避難しよう。そうすれば、本当に被害があっても、みんな助かる」（大人は文句を言う）

・本当の避難所と違っていたことは？〈電気が使える、水や食料がある、家族が無事ということが分かっている、情報がある、余震の恐れが無い、けがや病気の人がない〉

・避難所で過ごすことはしんどいことが分かったと思う。

今のうちに、家を安全にして、（家具の転倒防止、ガラス飛散防止フィルム、耐震化 など）災害後も家で過ごすことができるようにするというのも大切

・目標「衣・食・住・要配慮者へ声をかけることができる小学生」を目指す



	<p>アンケート記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ってきたお茶の量 ・飲んだお茶の量 ・使ったお茶の量 ・トイレに行った回数 <p>良く眠れましたか？ 他に、食べたり、飲んだりしたい物はなんですか？ 一番楽しかったことは？ 一番しんどかったことは？ 自分は、今災害に備えてどんな準備が出来ると思いますか？ 自分は、災害時に何が出来ると思いますか？ 自分や家族が「災害時要援護者」になった時のことを考えてみましたか？ 水が使えないことについてどう思いましたか？ 避難所宿泊体験の前と後で、何か気がついたこと、自分の考えが変わったことは何ですか？ 避難所宿泊体験について感想を書いて下さい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害や防災について家族と話をしたことがありますか？ 2) 何について話をしましたか？ 何について話をするつもりですか？ <p>ありがとうございました</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>人材…安全監理員、ボランティア、上富田町教育委員会に協力依頼（宿泊は3名） 子どもの持ち物…フェイスタオル2枚、バスタオル2枚、軍手、防寒着、懐中電灯1つ、歯磨きセット、自分が飲むためのお茶、1.5または2.0ℓのペットボトル1本、牛乳パック103本 食材…米、キャベツ、シーチキン、しょうゆ、塩、たまご、レトルトカレー又はハヤシ、ホットドッグ用パン、魚肉ソーセージ、ケチャップ、「一人用非常食セット」内のおかし、スープ等 その他…アルミホイル、新聞、段ボール、ガムテープ、ラップ大、大なベ×3、カセットコンロとガス、ポリ袋、ゴミ袋、ハイゼックス炊飯袋、防災手ぬぐい、バンダナ、たまごのカラ、ブルーシート、バーベキュー用網とトング、着火マン、プライバシーテント、ロープ、尿取パット、車いすレンタル</p>
<p>参加人数</p>	<p>児童 13 人+大人 7 人</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>児童 1 人あたり 500 円徴収（総額 5500 円）で、食材を購入</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 いつもはまず、「避難所にきたら、トイレがひどいことになる前に、マイトイレを作って使い方を他の人に分かるようにポスターを作してほしい」とお願いしていたが、今年のはじめにスリッパを撤去し、足を守るためにマイスリッパを作ってもらった。（そのためマイトイレをやる時間が無くなってしまい説明のみになってしまった）スリッパは、新聞や段ボール、ペットボトルでも作ることが出来るが、子ども達が考え出したのは、牛乳パックで作るスリッパであった。子どもの足にはサイズもぴったりで耐久性もあり、(工夫すれば大人も使える)それを翌日まで使用していた。子ども達が自ら考えてそれまでのものより良いものを作ってくれたことが嬉しい。 ベトナム人が参加してくれた。アオザイを着て写真を撮ったり、ベトナムの言葉を教えてもらったりするなど、異文化体験を楽しんだ。こちら側も、分かりやすい言葉（やさしい日本語）で話しかけるこ</p>



	<p>とを心がけたり、避難所に外国人が避難してきた場合について考える良いきっかけになった。</p> <p>ポリ袋レシピでは、初めてキャベツとシーチキンで野菜おかずを作ってみた。キャベツは生でもサラダとして食べられるし、ホットドッグの具としても挟み、シーチキンの油は、キャンドルとしても使え、保存もできるため、この組み合わせは良かったと思われる。</p> <p>【課題】</p> <p>8年目になる「避難所宿泊体験」で、毎年「甘いものや野菜」が欲しいという意見が出ていたので、「一人用非常食セット」や「ポリ袋レシピ」で準備したら、一番重要な「ないから不便、困る」を体験することができなかつたように思う。人間は普段当たり前にあるものが無くなって初めてその有り難さが分かるのであって、満たされているだけでは、そのことを知る事が出来ない。そういう意味では準備したことは失敗であったかもしれない。</p> <p>生卵を濡らした新聞で包んでから、アルミホイルで包み、鍋で加熱する方法でゆでたまごを作ったが、加熱時間が長すぎて、いくつか破裂したので注意。(20分程度でちょうど良いと思われるが、火加減や鍋にもよるかもしれない)</p> <p>9月に行った中国四川省(四川大地震の被災地)老北川(曲山)のスライドを見てもらった。一つの街をそのまま震災遺構として保存していることを、子ども達はどうか感じただろうか?</p> <p>映像は画面という同じものからの情報なので、画面の中の出来事が現実なのか、遠い国での出来事なのか、映画やゲームの世界での出来事なのか、分かりにくくなっているように感じ、心配である。海外のことより、まずは日本の被災地のことを知る方が先決ではないかと思いつつ、国内だけではなく海外にも目を向けてほしいと思う。</p> <p>日本からの救助隊や支援物資もたくさん展示されていた。国同士の問題は別にして、困った時はお互い様という気持ちをお互いに持ってほしい。</p> <p>いつもながら、プログラムを詰め込みすぎて時間が足りない。(毎回反省している)もっと子ども達が自分で考えて実践していくための時間をとることが必要だと思う。</p> <p>「おとなはみんな要配慮者」という設定で避難所体験をやってみよう。</p>
成果物	手作りスリッパ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (36)】 ※3

タイトル	ハロウィンパーティー (牟婁さくら園訪問) 子どもエコクラブ [®]
実施月日 (曜日)	平成 29 年 10 月 21 日 (土)
実施場所	朝来児童館と牟婁さくら園 (訪問)
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師



所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間（訪問時間は1時間弱）
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 校外学習・移動行事 体験学習 その他（交流）
活動目的※5	その他（お互いに助け合える関係を構築）
達成目標	交流を続けることで、緊急時にお互いに助け合える関係をつくる（身体障害者の施設）（4年目）
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傘妻さくら園に訪問のお願いと日程調整 ・ 事前に1. 5ℓペットボトルの下6から7センチをカットし、オレンジのスプレーで着色しておく ・ 2mm程度太さの紫アルミワイヤーを30cmの長さに切り、ペットボトルに穴をめうちで開けて取っ手をつける 児童館にて <ul style="list-style-type: none"> ・ ジャックオーランタンに黒ビニールテープで顔を付ける ・ 歌の練習 ・ 仮装 傘妻さくら園にて <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶 ・ 歌（となりのトトロ・夢をかなえてドラえもん・花は咲く・朝来小学校校歌）…ピアノ伴奏 ・ 子ども達がお菓子の入ったジャックオーランタンを持って一人ずつ「Happy Halloween」と言って渡す 児童館に帰ってから、自分のジャックオーランタンを作り、「トリックオアトリート」と言って各部屋を周り、お菓子をもらう。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	ペットボトル1.0ℓ丸型・オレンジスプレー（ペットボトル対応）・黒ビニールテープ・めうち・ペットボトルカット用ハサミ・紫アルミワイヤー・ペンチ・配るお菓子・歌の歌詞・キーボード
参加人数	児童12人+大人4人
経費の総額・内訳概要	お菓子3000円程度・オレンジスプレー900円・黒ビニールテープ100円・アルミワイヤー700円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>3年目となる「傘妻さくら園訪問」児童館のすぐ向かいにあるにも関わらず、交流がなかったため、2014年度のチャレンジプランに採択された年から交流を続けている。</p> <p>普段あまり接点のない障害のある方との交流を通じて、普段から自然に接することが出来れば良いと思う。</p> <p>高台に避難する時は、車いすを介助して一緒に避難したり、子ども達が誰かに助けを求めたいことに遭った時には、24時間大人がいる施設は、逃げ込むことが出来る安全な場所になると思われる。</p> <p>入居者さんが大変喜んでくれたので嬉しかった。（職員さんにはお手数をおかけしたと思う）</p> <p>【課題】</p> <p>時間を午前中に変更したことで、より多くの利用者さんの参加が見られた（午後は入浴時間と重なっている）が、子ども達は予定と重なったりして参加できない子がでてしまった。</p> <p>当日のみ参加の子も多く、普段から歌の練習をすることができないため、ぶっつけ本番のようになってしまった。</p>

成果物	ペットボトルの底利用 ジャックオーランタンの小物入れ
------------	----------------------------

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (37)】※3

タイトル	田辺のヒーロー「武蔵坊弁慶」になろう！ ①ついでに防災ずきんを作っちゃおう 和歌山ってスゴイ⑨
実施月日 (曜日)	平成 29 年 11 月 18 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習 その他 (防災グッズ製作)
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	「武蔵坊弁慶」がかぶっている白布は「裏頭 (かとう)」=頭巾 防災と言えば「防災ずきん」をつくる
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	あらかじめ、「弁慶祭り」の弁慶の衣装を借りて、裏頭を数枚製作しておく 新聞や段ボールで弁慶のもつ「長刀」不織布の黒はっぴを準備しておく 2 枚のフェイスタオルの間に大人用衣類やその他を詰め、出てこないように仕付け糸で閉じてから (仕付け糸を使用することでいざという時には簡単に解体して中身を取り出すことができる)、安全ピンでひもをつける
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	子どもの準備物…同じサイズのフェイスタオル 2 枚・大人用 T シャツ、パンツ、靴下などの衣服 (子ども用で準備するとすぐに着られなくなるので、大人用にした) 児童館での準備…安全ピン・ひも・仕付け糸・針・チャコペン 防災ずきんのな中に詰めるもの…古新聞 2 50 買い物袋・ゴミ袋・尿取パット・ナプキン・ポケットティッシュ・ポリ袋
参加人数	児童 5 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	仕付け糸、安全ピン、ひも 1,500 円
成果と課題	【成果】 初めに手作りの「防災ずきん」を被って写真を撮った後、みんなで「弁慶」の仮装をした。 タオル地の為、火災には弱い直接火の粉を浴びるよりは耐えられると思う。中の衣類は避難時には役立つので濡れないようにゴミ袋でくるんでからいれてある。



	<p>中身を利用して、今までの学びから、「トイレ」「レインコート」「調理」「手当」「防寒」等に役立てることができる</p> <p>【課題】 天候不良で寒く参加者が少なかった。時間と手間のかかる内容だったがマンツーマンであわてることなく対応できた。 人数が少なかったため、裏頭やはっぴが子ども達全員分あったので、良かった（多かったら、取り合いになっていたかな） 出来るだけ縫い留めたかったが、時間不足のため、安全ピンをたくさん使ってしまった。外れることもあるかもしれないので、気を付けるように伝えたが、安全ピン自体が役に立つこともあるかもしれない。 子ども達は、一度騒いでしまうとなかなか落ち着かなくなるため、はじめに防災ずきんの製作をしてから、弁慶仮装の順番にしたのは正解であった。</p>
成果物	(災害時に役立つものがいっぱい詰まった) 防災ずきん

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (38)】 ※3

タイトル	<p>田辺のヒーロー「武蔵坊弁慶」になろう！</p> <p>②風呂敷と三角巾の使い方（応援メッセージ入り三角巾製作：時間不足でできず） 和歌山ってスゴイ⑩</p>
実施月日（曜日）	平成 29 年 11 月 18 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	<p>体験学習 その他（包帯法）</p>
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	布がどのようなことに使えるか分かる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>「武蔵坊弁慶」の裏頭（弁慶頭巾）は、白い四角い布に少しだけ手を加えたものである。 身近にある布を使って包帯法、物を運ぶ方法（時間不足）、応援メッセージ入り三角巾（時間不足）を製作</p>

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・弁慶頭巾（裏頭） ・三角巾（シーツ再利用） ・風呂敷 ・油性ペン ・本（風呂敷の使い方・応急手当の方法）
参加人数	児童 5 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】 三角巾は包帯としては非常に有用で身体のどの部分でも覆うことができ、包帯としても使うことができる。ゆっくり練習する時間はなかったが、一度見てもらったので、なんとなく使えるようになればと思う。 風呂敷もたたみ方によっては三角巾と同じように使うこともでき、結び方によっては便利なバッグやリュック、ポンチョにもなる。</p> <p>【課題】 これだけで、2時間くらい必要だった。時間調整にムリがあった。</p>
成果物	(今回はできなかったが、「応援メッセージ入り三角巾」)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (39)】 ※3

タイトル	手ぬぐいを上富田の木「ヤマモモ」で染めてみよう 和歌山ってスゴイ⑩ 子どもエコクラブ⑰
実施月日（曜日）	平成 29 年 11 月 25 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2.0 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	その他（地域について知り、地域を好きになる）
達成目標	上富田の木であるヤマモモを知りそれを使って手ぬぐいを染めてみることで、地域への愛着につながる 今後の手ぬぐいの使い方や、手ぬぐいで避難リュックを作ることに繋げる



実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手ぬぐいを洗濯して乾燥させる ・手ぬぐいを倍に薄めた豆乳に漬けて乾かす ・ためしに家で染めてみる <p>当日</p> <p>「山桃会」のメンバーと子どもさんとの合同活動（幾島もメンバーの一人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉やおはじき、輪ゴムを使って手ぬぐいに模様をつける ・作りながら、他の染物を見てもらう ・同時に樹皮粉をお茶パックに入れて煮だす ・手ぬぐいを染め液に入れて 20 分ほど煮る ・軽く絞って取り出し、手袋を着けて水洗いする ・焼きミョウバンを溶かした湯（1ℓに 10g 程度）に手ぬぐいを漬けて 15 分ほど待つ ・手袋を付けてしっかりと水洗いする（手が染まるので注意） ・ハサミでゴムを切りながら外す ・もう一度しっかりと水洗いして、乾いたタオルで絞って水分を取り、ドライヤーで乾かす
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・手ぬぐい白（30 枚）・山桃樹皮粉・焼きミョウバン・無調整豆乳 ・ステンレスかホーローの鍋・カセットコンロとガス・菜ばし ・厚手ゴム手袋・薄手ビニール手袋・お茶パック・輪ゴム ・ビー玉やおはじき・洗面器・ハサミ・タオル・ドライヤー
参加人数	児童 14 人+大人 8 人
経費の総額・内訳概要	手ぬぐい（108 円×30）山桃樹皮粉（2160 円）ミョウバン（200 円）豆乳（200 円）ビニール手袋（108 円）
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>豆乳に漬けなかったものは薄い黄色に染まったが、せっかく絞りの模様を入れたのに、ほとんど見えなかった。豆乳に漬けたものは、やや茶色がかった黄色で、絞りのあとが綺麗に出ていた。適当にビー玉や輪ゴムで縛っても、後でほどくとステキな模様になっている所が楽しい。</p> <p>山桃の実について知らない子はいなかったが、（今までにも、山桃シロップの提供や山桃マグネットや情報キット製作をしている）山桃の樹皮で染物が出来ることを知っている子はいなかった。</p> <p>他にも、藍染め、草木染、梅の樹皮染（みなべ町で体験できる）めなどを見てもらい、染物に関心を持ってもらいたいと思う。</p> <p>将来的に、上富田で山桃樹皮粉染め体験が出来たらいいと思う（子ども達が手伝ってくれたらなお嬉しい）</p> <p>山桃会との交流が出来たことも良かった。これを機会に、もっと山桃について知ってもらいたい。</p> <p>【課題】</p> <p>最期は水洗いして乾かしたが、染液と焙煎の臭いがかなり残っていた。自宅で中性洗剤で洗うとだいぶとれたが、やはり少し色落ちしてしまった。</p>
成果物	山桃の樹皮で染めた手ぬぐい

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（40）】 ※3



タイトル	「福島ひまわり里親プロジェクト」ひまわりの種を送って、被災地の復興を応援しよう&ひまわりの種って食べられるよ！
実施月日（曜日）	平成 29 年 11 月 25 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.25 時間（山桃染めの待ち時間を利用して実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他（被災地支援）
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	「福島ひまわり里親プロジェクト」について知り、被災地の復興を応援する ひまわりの種活用法を知る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	「福島ひまわり里親プロジェクト」のひまわり種を乾燥させておいたものを種とその他に分別する。 中国四川省のスライド（避難所宿泊体験の時に視聴）で、中国のスーパーには何種類ものひまわりの種がスナックをして売られていることを紹介していた。 そのうち 2 種類と、同じようなかぼちゃの種計 3 種類をお土産に買ってきていたので、試食してもらった。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋 ・新聞紙 ・ひまわりの種のお菓子 2 種 （中国のスーパーで購入したひまわりの種） ・かぼちゃの種のお菓子
参加人数	児童 14 人+大人 8 人
経費の総額・内訳概要	ひまわりの種の送料
成果と課題	<p>【成果】 最終的に多くの種が採取でき、福島にたくさん送ることが出来るので良かった。 ひまわりの種を送ることがどのように復興支援につながるのか分かった。 いざという時にはひまわりの種も食料になることが分かった</p> <p>【課題】 種の選別は思ったより時間がかかり、持ち帰りで作業することになった。 中国のひまわりの種は味がついていておいしいが、カラを剥くのに時間がかかり、熱処理してあるためか中身も少なかった。あんまり食べた気がしない…。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（41）】 ※3

タイトル	山桃染めの手ぬぐいで、手ぬぐいリュック作り！自分の避難袋を準備しよう 和歌山ってスゴイ⑫
実施月日（曜日）	平成 29 年 12 月 2 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	上富田町の木「ヤマモモ」で自分で染めた手ぬぐいを使って、避難リュックをつくる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	先週ヤマモモで染めた手ぬぐいを使用 ・両端を三つ折りにして、両面テープで留める ・中表にして端も両面テープで止め、ひっくり返して、ひも通し付近を安全ピンで補強する ・ひもを両側から通す ・ひものはしを結んで大き目の安全ピンで両底端付近に留めてリュックにする ・名前や連絡先を書いた名前テープを内側にアイロンで貼る ・中に児童館で準備出来る最低限の物を入れる ・自宅で何を追加すれば良いか考える
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ひも・安全ピン・両面テープ（透明フィルム強力タイプ）・アイロンと台・名前テープ・油性ペン・避難リュックの中に入れるもの（マスク・絆創膏・ポリ袋・尿取りパット・ナプキン・ティッシュ・250 買い物袋・新聞・鉛筆・メモ・輪ゴム）
参加人数	児童 5 人+大人 4 人
経費の総額・内訳概要	ひも 800 円・両面テープ 300 円 他は今までの残り
成果と課題	【成果】 以前も「あっそ防災手ぬぐい」を使ってリュックを作ったが、作るだけで終わってしまっていた。 今回は、自分達の町の木「ヤマモモ」を使って自分で染めた手ぬぐいなのでさらに愛着があると思われる。 また、少しではあるが、中身も準備することができ、家に帰ってから何を追加したらより良い避難リュックになるかを考える時間も取れたことが良かった。 【課題】 人数も少な目でみんな手際よく進んだが、もっと人数が多かったらどうなっただろうと思う



成果物	ヤマモモ染めの避難リュック
------------	---------------

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (42)】※3

タイトル	クリスマスキャンドルで停電に備えよう 和歌山ってスゴイ ^⑬ 子どもエコクラブ ^⑭
実施月日 (曜日)	平成 29 年 12 月 16 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	和歌山の特産品（花き）を知り、それを使用した災害に役立つキャンドルを作る 実際に花き栽培をしている熊野高校農業クラブの生徒に、花きについての説明をしてもらうことで、双方の学習に役立つ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに熊野高校農業クラブの生徒さんに「和歌山県の花き栽培について」説明してもらった。写真を大きく引き伸ばしたパネルを準備してくれたので、分かりやすかった。 ・吸水スポンジを、ボンドを付けたシーチキン等の缶に押し込んで詰め、キャンドルを立ててから、好きなように飾る ・マッチは出して飾り（赤や白がある）としても良いし、見えないようにしても良い。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	事前に熊野高校農業クラブに参加してもらえるかの確認、依頼書の作成等の準備が必要。 キャンドル・シーチキンの缶・吸水スポンジ・木工用ボンド・ピンセット・杉、ヒノキ、松などの葉・ドライフラワー（カスミソウ・スターチス・千日紅・帝王貝細工・各種木の実・トクサ）マッチとマッチ箱・ジッパー袋小・リボン・クリスマスの飾りなど
参加人数	児童 10 人+大人 3 人+熊野高校農業クラブ 2 人+引率教諭 1 人
経費の総額・内訳概要	ドライフラワーは自作&購入 約 400 円程度 吸水スポンジ×2・マッチ×2 キャンドル×7 約 1200 円 他は児童館にある物を使用
成果と課題	【成果】 身近なカスミソウやスターチスが和歌山で多く栽培されていることは、ほとんどの児童が知らなかった様子。生花としてアレンジには欠かせない存在であるばかりでなく、ドライフラワーとしても長く楽しめるため、利用価値が高いことを知ってもらえたことが良かった。花言葉（カスミソウ：「無垢の愛」、「感謝」、「幸福」、「夢心地」）



	<p>(スターチス：「変わらぬ心」「永遠に変わらない」)を知ることで、一層これらに対する愛着が持てると思われる。スターチスは中国ではお茶としても使われており、機会あればこれも試してみたいと思っている。</p> <p>【課題】 子ども達には、非常に燃えやすい物で飾ったキャンドルなので、絶対にこのまま火を付けないように伝えた。マッチと側薬を同じ袋に入れて配布してしまい、万が一発火しては大変なので、後日連絡することになった。</p>
成果物	マッチと側薬がセットになったキャンドル

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (43)】※3

タイトル	和歌山ハーバリウムを作ろう 和歌山ってスゴイ⑭ 子どもエコクラブ⑰
実施月日 (曜日)	平成 29 年 12 月 16 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	和歌山の特産品(花き)を知り、それを使用した災害に役立つハーバリウムを作る ハーバリウムとは「植物標本」であるが、今はおしゃれなインテリアとして人気がある。本来は専用のオイルやアルコールを使用するが、ベビーオイルを使った災害時に役立つハーバリウムを作る
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバリウムの中身はベビーオイル。災害時にはタコ糸を芯にすることでキャンドルになり、オイルを保湿として使用することもできることを説明 ・ピンを選び、ドライフラワーの小さ目のものや、貝殻、ラメを好きなように入れていく。 ・ベビーオイルを入れて出来上がり。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	小ビン(コルク栓・アルミ栓) ドライフラワー・ベビーオイル・凧糸・ワイヤー・貝・ネイルアート用ラメ・キャンドル見本・ピンセット



参加人数	児童 10 人+大人 3 人+熊野高校農業クラブ 2 人+引率教諭 1 人
経費の総額・内訳概要	小瓶×40 約 2000 円 ベビーオイル×14 本 約 1500 円 タコ糸、ワイヤー、ラメ 約 300 円
成果と課題	<p>【成果】 ハーバリウムという、今はやりのインテリアを、和歌山特産の花きで作ることが出来た。 災害時に保湿剤が必要とされたことから、ベビーオイルのがどんなことに使えるかを伝えられたことは良かったと思う。 タコ糸とベビーオイルを必ずセットにしてほしいと伝えたが、子ども達はタコ糸の扱いに苦労していた、引率の先生が、ワイヤーとタコ糸を一緒にひねることで、形作り安くなることを教えてくれたので良かった。</p> <p>【課題】 実際にタコ糸でキャンドルになる所を見せたが、ビンは耐熱性ではなく、割れる可能性もあること。また、火を使う時は必ず大人と一緒にすることを伝えた。</p>
成果物	和歌山（の花きを使用した）ハーバリウム

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（44）】 ※3

タイトル	ロープでお正月リースを作ろう 和歌山ってスゴイ ^⑮ 子どもエコクラブ ^⑳
実施月日（曜日）	平成 29 年 12 月 22 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	水害の多い上富田町では備えておきたいロープを使用したリースを作る。飾りは和歌山特産の花きを使用する。 また、もやし結びについて復習し、身を守るために使いこなせるようにする。

実践方法・進め方 (簡条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・もやい結びの練習 ・1人6メートルのロープをVWVの形にして上部を仕付け糸で結び、平になるように三つ編みする ・好きな形のリースにして仕付け糸で固定する ・飾りは仕付け糸で結びつける(ほどいてロープに戻せるようにするため)(結びつけた飾りの上に他の飾りをボンドで付けるのはOK) ・吊り下げ用のワイヤーは使用可
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・PPロープ・仕付け糸・折り紙、木の実や葉(シダ)・木工用ボンド ・ワイヤー・水引・コピー用紙(紙垂)
参加人数	児童6人+大人3人
経費の総額・内訳概要	ロープ×90m 約3000円
成果と課題	<p>【成果】 水害に備えてほしいと思いつつ、普段は不要なため、たとえ備えても押し入れの奥にしまい込まれ、いざという時には見つからないという事態になってしまいそうだったが、季節の飾りにすることで、身近に備えておくことができた。仕付け糸で固定してあるので、飾りを外すのも簡単なのでお正月が終わればまた季節に合わせたリースに作り替えることで長く楽しめる。 紙垂(しで)を付けることで、お正月のリースらしくなった。リースの形は自由にしたが、定番のものだけでなく、形よく結んだもの、リボンなど、子どもの発想には驚かされた。</p> <p>【課題】 ウラジロを見つけることが出来ず、コシダで代用したが違いの説明はしておいた。 ボンドを原則使用禁止にしたため、どんぐりなどの木の実を飾ることが出来なかった。 もやい結びは繰り返さないとなかなか身に付かないため、今回の練習だけでは不十分だと思う。</p>
成果物	ロープのお正月リース

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ(45)】※3

タイトル	七草粥+食べられる野草、毒草を知ろう
実施月日(曜日)	平成30年1月6日(土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：安全監理員
所要時間または	1.5時間



「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事 校外学習・移動教室 体験学習
活動目的※5	防災に対する知識を深める
達成目標	七草を採取、粥を作ることで、日本の伝統文化に触れ、その意味を知ると同時に食べてはいけない野草についても学ぶ。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・七草の採取できる場所を確認 ・七草採取（今回は大人で採取） ・七草の説明 ・七草粥調理 ・七草粥の試食
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・七草に詳しい本日の講師 ・カセットコンロ・ガスの予備・大鍋・お玉・七草・まな板・包丁・米・塩・鮭・たまご・各種漬物・梅干し・食器・箸 ・身のまわりの毒草の資料（パワーポイント）
参加人数	児童 7人+大人 5人
経費の総額・内訳概要	鮭・たまご、漬物など約 1200 円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>毎年恒例の行事だが、日本古来の行事でもあり、パックで販売されている七草が主流になってきている現在、見分けることができるように継続していくべき行事と思われる 米から炊いた七草粥はとてもおいしく、昼食後にも関わらずみんな良く食べていた。 食後にたくさん梅干の種があり、数えたら、59個もあった（大人は1～2個しか食べていない）さすが、和歌山の子供達！（直前に、身体に良い物でも食べ過ぎてはいけないという話をしたばかりだったが…）</p> <p>【課題】</p> <p>身近で七草が採取できるところが少ない。 毎年必ず採取できるところに今年は少なく、ハハコグサは全く見つけることが出来なかったため六草粥となった。これも、地球温暖化と関係あるのだろうか？ 講師より、来年は午前中に七草を採取して、昼食を兼ねて七草粥を作ってはどうかと提案あり。そのように計画したいと思う。</p>
成果物	七草粥

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（46）】※3

タイトル	新年会！〇〇〇お寿司を作ってみよう！
------	--------------------

実施月日（曜日）	平成 30 年 1 月 13 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	マイトイレの必要性を知り、使い方、作り方が分かる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時におけるトイレの必要性 マイトイレの使い方（マイトイレ活用法） <ul style="list-style-type: none"> ・排泄（トイレ・オムツ・パンツ） ・下着の汚れ防止（ナプキン・尿とりパット） ・傷の保護（尿とりパット・ナプキン・ゴミ袋）…広範囲の火傷や擦り傷ラップの代わり ・骨折や傷の固定（買い物袋で三角巾・ストッキング包帯・新聞で添え木） ・食器（新聞の箱の中に袋をかぶせる）…カップフィーディング ・調理（ポリ袋調理法：同時にお粥を作ることも出来る） ・足の保護（新聞スリッパ・袋を履く） ・防雨・防寒・隠す・運ぶ・壊す（ゴミ袋（レインコート・水も運べる）・ストッキング（履く&着る・石を入れて振り回すとハンマー）・新聞紙（服の中にしわにして入れる&隠れる）…一人で泣きたい時・トイレ隠し ・感染予防・素顔隠し（ティッシュ又は新聞と輪ゴムでマスク） ・その他（袋で水囊・ストッキングは紐になる・ゴミ袋と新聞で枕） <p>・白の尿とりパットをシャリに見立てて、カラーゴミ袋をネタにしてお寿司に似せたダイパーお寿司を作る</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・尿とりパット（白）・新聞紙×3・ポリ袋・ゴミ袋・250買い物袋・ポケットティッシュ・輪ゴム・ ・画用紙・折り紙・カラーポリ袋・カラータオル・エアクッション ・ハサミ・セロテープ・輪ゴム・油性ペン
参加人数	児童 16 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	尿とりパット約 800 円 カラーポリ袋 4 色約 2000 円
成果と課題	<p>【成果】 今までは、ダイパー（マイトイレ）ケーキやダイパークッションを作ってきたが、日本の新年会らしく、ダイパーお寿司を作ってみる。巨大なお寿司も並べてみるとにぎりのセットのように見えて面白かった。 買い物袋でエビに良く似たものができた。</p> <p>【課題】 すしのネタを、カラーポリ袋以外でもネタらしく見え、防災に役立つ</p>

	つものにしていけるよう、もう少し考えていく必要がある。
成果物	ダイパーお寿司

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (47)】 ※3

タイトル	食品トレーの絵馬に今年の家族の防災目標を書こう 子どもエコクラブ②
実施月日 (曜日)	平成 30 年 1 月 13 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事 体験学習
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	食品トレーののリサイクル工作。1年の始まりに絵馬に「防災目標」書き、家に置くことで、家族全員が防災に取り組むモチベーションを維持できる。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・木目の食品トレーを絵馬の形にカットしておく ・絵馬に「今年の防災目標」を書き、飾りをつけて華やかにする ・家の人にも見てもらうよう伝える。 ・書いたからには、実現するように努力すること！
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・木目の食品トレー・折り紙、スパンコールなどの飾り ・ハサミ・カッター・ボンド・ひも・油性ペン・両面テープ
参加人数	児童 16 人+大人 5 人
経費の総額・内訳概要	購入した物なし
成果と課題	<p>【成果】 絵馬には願い事を書くが、願うだけではなく、願いに向かって努力しなければならない。 いつでもだれもが見ることが出来る、「今年の防災目標」を書いた絵馬が出来上がった</p> <p>【課題】</p>

	目標が達成できたかの評価が難しい
成果物	食品トレーの絵馬

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (48)】 ※3

タイトル	くだもの王国和歌山！甘いジャムはパワーの源 和歌山ってスゴイ [®]
実施月日（曜日）	平成30年1月20日（土）予定
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	和歌山に誇れる名産「ミカン」や「ジャバラ」について知り、ジャムを作ることで、保存食について学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・保存食について（なぜ常温でも腐らないのか？砂糖以外にも食物の保存に使える物、方法があるのか？） …冷蔵・冷凍・乾燥・塩漬け・砂糖漬け・酢漬け・酒など ・和歌山県北山村名産の「ジャバラ」について（邪を払う縁起物・花粉症に効果ありと言われている） ・ミカンジャムを作る ・ジャバラ果汁をミックスして、邪を払うジャムを作る
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ミカン・ジャバラ果汁・砂糖・ ・ホーロー鍋・お玉・木杓子・菜箸・カセットコンロとガス・ビン・ ビン煮沸用大鍋・ミキサー
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	ミカン ジャバラ果汁 砂糖



成果と課題	【成果】 (予想) 和歌山県北山村のジャバラについて知ること、また一つ和歌山を誇りに思えることが増えたと思う。 災害時に長く冷蔵庫が使用できなくなった時には、どの食材が常温でも長持ちするのか、どうすれば、長持ちさせられるのかを知ることが役に立つと思われる。 また日ごろからも、保存食の良さ(栄養価が高まる、味が濃くなるなど)を知ること、実践してみたいと思ってもらえたら嬉しい。
成果物	ミカン&ジャバラミックスジャム(邪を払うジャム)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (49)】^{※3}

タイトル	オレンジキャンドル&ミカンアート
実施月日(曜日)	平成30年1月20日(土) 予定
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5時間
プログラムのカテゴリ、形式^{※4}	体験学習
活動目的^{※5}	その他(ミカンの楽しみ方)
達成目標	和歌山の名産ミカンで「食べる」以外の役に立つ方法を知る
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> 温州ミカンの皮を使ったミカンアートにチャレンジ(身近な物で楽しむことが出来る) オレンジの皮をうまくむくことで、サラダ油を入れてキャンドルにすることができる。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 温州ミカン・オレンジ・サラダ油 ハサミ・カッター・油性ペン・着火マン
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	温州ミカン オレンジ



	サラダ油
成果と課題	<p>【成果】 (予想) ミカンをただ食べるだけでなく、アートとして楽しむことが出来れば、避難所で重要な「楽しむ・遊ぶ」ことにつながると思われる。 オレンジをわざわざキャンドルにする必要はないかもしれないが、明りを作る一つの方法をして知っておいても良いと思う。</p> <p>【課題】</p>
成果物	オレンジキャンドル ミカンアート

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (50)】 ※3

タイトル	防災ミニミニキッズニア 和歌山ってスゴイ ^⑰
実施月日(曜日)	平成30年2月10日(土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式 ^{※4}	体験学習
活動目的 ^{※5}	その他(災害時に役立つ仕事を知る)
達成目標	キッズニア(子どもの職業体験)を通じてこれらの仕事が災害時にどのように役に立つかを考える
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・職業にはどんなものがあるか? ・それらは災害時にどのように役に立つか? ・役に立たない仕事はあるのか? ・「防災教育の不思議な力 子ども・学校・地域を変える」 諏訪清二 著 を参考に、仕事と防災の関係を考える ・仕事の準備(新聞記者・自動車学校・デザイナー・みかん農家&八百屋・屋台他) ・2グループに分かれて、仕事をする人とそれを利用する人を体験する。

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・新聞記者（腕章・カメラ・名刺・取材用メモ・新聞記事） ・自動車学校（車についてのクイズ・免許証・色鉛筆） ・デザイナー（紙・色鉛筆） ・みかん農家&八百屋（みかん・エプロン） ・屋台（食べ物） ・（おもちゃの）お金
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	みかん
成果と課題	【成果】 （予想）子ども達が将来なりたい職業について発表しあい、災害時にはどのように役に立つかを考えることで、自分の未来の職業に誇りがもてる。 【課題】
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（51）】※3

タイトル	DIG&HUGをやってみよう！朝来児童館が避難所になったら…？
実施月日（曜日）	平成30年2月24日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	DIGとHUGについて知り、朝来児童館の図面を使用したHUGを行うことによって、実際に避難所になった時にどのような問題が起こり、どのように対処するべきか分かる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	DIGとは(Disaster(災害)、Imagination(想像力)、Game(ゲーム)) 災害図上訓練は、地図を用いて地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図と地図の上にかける透明シート、ペンを用いて、危険が予測される地帯または事態をシートの上書き込んでいく訓練のこと HUGとは、H(hinanzyo 避難所)、U(unei 運営)、G(game ゲーム) (避

	<p>難所運営ゲーム) 英語で「抱きしめる」という意味になり、避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられた。</p> <p>事前に市販の HUG カードが使えるサイズの朝来児童館見取り図を製作しておく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DIG (朝来児童館周囲で起こる可能性のある被害について) ・HUG (朝来児童館が避難所になった時に起こる可能性のある事柄)
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 ・ 道具、材料等 	<p>油性ペン (いろいろな色をそろえる)</p> <p>地図 (状況により使い分ける)</p> <p>ベンジン (油性ペンで書いたものを消す、除光液などで代用できる)</p> <p>透明シート (地図の上において使用)</p> <p>HUG (避難所運営ゲーム)</p> <p>朝来児童館の見取り図</p>
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>(予想) 小学生にも出来るのかどうか分からない</p> <p>【課題】</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (52)】 ※3

タイトル	思いでパウチ (家族の写真をキーホルダーにしよう)
実施月日 (曜日)	平成 30 年 2 月 24 日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者</p> <p>氏 名：幾島浩恵</p> <p>所属・役職等：講師</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	災害時の家族写真の重要性について知る

実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	災害時に持ち出したかった物の一つに、家族写真がある。 家族を探す時には役立つし、不幸にして家族を失ってしまった時には唯一の写真となるかもしれない。 ・家族とバラバラに避難して、家族の行方が分からない時に、どうやって探すか？(家族の特徴をどうやって伝えるか?) ・家族みんなの写真を入れたパウチ(ビニールテーブルクロスをアイロンで圧着したもの)を作る。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	事前に家族写真(個人別でもよい)を家族の人数分準備してもらうように伝える ・ビニールテーブルクロス・アイロン・アイロン台・穴あけパンチ・ひも・スパンコール・小さ目の飾りなど
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	ビニールテーブルクロス
成果と課題	【成果】 (予想) 家族写真はあるようでありあまり持っていない。避難袋や普段からキーホルダーとして身につけておくことで、災害時に家族を探す時に役立つ。また、家族を守りたいという思いにもつながる。 【課題】
成果物	家族の写真をパウチしたキーホルダー

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (53)】 ※3

タイトル	あっそ防災バンダナで巾着を作ろう
実施月日(曜日)	平成30年3月3日(土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1.5時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	あっそ防災バンダナの使い方を知り、身近に置いておけるように、巾着を作る



実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<p>朝来防災バンダナ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡先の記入欄 ・「おねがいします」と「おてつだいします」の使い方 <p>「巾着の作り方」に沿って製作する</p> <p>「助けを求めることは悪いことなのか？」2人の先生の言葉を紹介</p> <p>小児科医の熊谷 晋一郎先生（くまがや・しんいちろう） 1977年山口県生まれ。生後間もなく脳性麻痺により手足が不自由となる。「自立」とは、依存しなくなることだと思われがちです。でも、そうではありません。「依存先を増やしていくこと」こそが、自立なのです。これは障害の有無にかかわらず、すべての人に通じる普遍的なことだと、私は思います。</p> <p>精神科医の松本俊彦先生（まつもと・としひこ） 歯を食いしばって、誰にも泣き言を言わずに一人で頑張ることが自立ではない。そんな人は脆くてすぐにポキッと折れちゃうんです。できるだけサポーターをたくさん作るこそが本当の自立なんです。そして、最大の自傷行為は何かというと、「助けを求めないこと」なんです。</p> <p>もっと助けを求めることが当たり前になったら、どんな人にとっても過ごしやい世の中（避難所でも）になると思う。</p>
準備、使用したもの <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・あっそ防災バンダナ ・針・糸（しつけ糸）・ハサミ・ひも 60 cm×2・安全ピン・油性ペン
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	あっそ防災バンダナ製作費約 13 万円 ひも・安全ピン
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>「おてつだいします」は、困っている人がいたらいえるかもしれないが、自分が困った時に「おねがいします」とは言いにくい。しかし、困った時はお互い様の精神で、「助けが必要」と言うことは伝えるべき。それを少しでも言いやすくするためのバンダナを、巾着にすることで身近に持つておくことができる。</p> <p>【課題】</p>
成果物	あっそ防災バンダナで作った巾着

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（54）】※3

タイトル	バンダナ&手ぬぐいの使い方
-------------	---------------



実施月日（曜日）	平成 30 年 3 月 3 日（土）
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	0.5 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	過去に製作した手ぬぐい（避難リュック）と今回製作したバンダナ（巾着）が、災害時にどのように役に立つのかを知る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	手ぬぐいやバンダナの使い方（マスク・帽子・ひも・フィルター・タオルとして・包む・包帯・ガーゼ・石を入れてハンマー・旗・遊ぶ・人形を作る・下着）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・あっそ防災手ぬぐい ・あっそ防災バンダナ
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 日本で昔から使われてきた手ぬぐいやバンダナは、その形が様々な物に利用できるからこの形なのである。ただの布やハンカチとしての使い方だけではもったいないので、多くの場面で有効に利用してもらいたい。使えるようになることが、小さな「安心」になる。 【課題】
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ（55）】 ※3

タイトル	トルコ記念館（海難 1890 の舞台になった和歌山県串本町） & 太地町立くじらの博物館（H28 年「鯨とともに生きる」が日本遺産に認定）
------	---

	&国の名勝天然記念物「橋杭岩」見学 (H29. 7. 31 日本夜景遺産 (ライトアップ夜景遺産) に認定) 和歌山ってスゴイ ^⑱
実施月日 (曜日)	平成 30 年 3 月 10 日 (土)
実施場所	「トルコ記念館」と「太地町立くじらの博物館」
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	8 時間
プログラムのカテゴリ、形式 ^{※4}	校外学習・移動教室
活動目的 ^{※5}	その他 (過去の災害について勉強する・和歌山ってスゴイを知る)
達成目標	和歌県は、台風の通り道でもあり、昔から風水害による被害が多かった。今も続く「トルコと和歌山 (日本) の友好」には何があったのか? その後 100 年近く過ぎてから、トルコが日本を助けてくれたのはなぜか? すべての日本人に知ってもらいたいこのストーリーをまずは和歌山の子ども達知らなければならない。
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・移動バスの中で「エルトゥールル号遭難事件」について説明 (1890 年 (明治 23 年) 9 月 16 日夜半、オスマン帝国 (その一部は現在のトルコ) の軍艦エルトゥールルが、現在の和歌山県串本町沖にある、紀伊大島の檜野埼東方海上で遭難し 581 名が死亡。串本町大島の住人が必死の救助にあたり、69 名を救出した) ・1985 年。イラン・イラク戦争が激化する中、日本人 250 名はテヘランに取り残されていた。当時のオザル・トルコ大統領が「今こそエルトゥールル号の恩を返そう」と派遣を決断。日本人をトルコ政府がトルコ航空を使って救出した ・太地町立くじらの博物館 (H28 年鯨とともに生きるが日本遺産に認定) 日本遺産とは…地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に案内と申し込み書を配布、収集する ・9 時集合 17 時解散予定
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	入場料「トルコ記念館」子ども 250 円 大人 500 円 入場料「太地町立くじらの博物館」子ども 700 円 大人 1500 円
成果と課題	<p>【成果】 参加してくれた子ども達には、「トルコと和歌山 (日本) の友好」について、理解してもらえたと思う。</p> <p>【課題】 「海難 1890」を子ども達にも見てもらいたい。今後の企画として考える。</p>

成果物	なし
------------	----

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：チャレプラ (56)】※3

タイトル	おつかれさま会 (防災教育チャレンジプラン1年の頑張りを記念して、ペットボトルのトロフィー製作と賞状授与) 子どもエコクラブ②
実施月日 (曜日)	平成30年3月17日 (土)
実施場所	朝来児童館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：幾島浩恵 所属・役職等：講師
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	その他 (1年間の振り返り、お疲れ様会)
達成目標	1年間の「防災教育チャレンジプラン」を振り返り、感想を聞き合う。お疲れ様会でトロフィーと賞状を授与して労う。
実践方法・進め方 (箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・トロフィー製作 (飾り付け) ・トロフィーと賞状授与 ・お疲れ様会 (おやつとジュース) 一人ずつ1年間の感想、もう一度やりたいこと、やりたくないこと、新しくやってみたいことを聞く
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・1.50丸ペットボトル (トロフィーの形に製作しておく) ・賞状 ・トロフィーを飾るスパンコール・シール・リボンなど ・CDデッキ (賞状授与の曲) ・お疲れ様会用おやつとジュース
参加人数	児童人+大人人
経費の総額・内訳概要	おやつとジュース



成果と課題	【成果】 トロフィーと賞状は、1年間の締めくくりとしては良いと思う。 子ども達から、今までの感想やもう一度やりたいこと、やりたくないこと、新しくやってみたいことを聞き、今後の参考にする。 【課題】
成果物	ペットボトルのトロフィーと賞状

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたい事がありすぎて、どれを優先して実施するか迷った。 ・たくさんのプランを実践したかったため、1回に2つのプランを実践したこともあったが、やはり、時間不足になってしまった。 ・1回2時間と決まっているが、プランによってはもっと長い時間をとりたいと思う物もある。 ・ただの工作や季節のイベントも、防災の視点から見ると「防災教室」となる物が沢山ある。 ・今回は、特に「子どもエコクラブ（あっそ児童館エコクラブ）」の活動にもなるように、出来るだけリサイクル工作を心がけた。 ・「和歌山ってスゴイ」と思ってもらえるよう、和歌山ならではのプラン、和歌山の偉人、和歌山発祥の物などを多く取り入れ、和歌山の素晴らしさを子ども達だけでなく、チャレンジプランに参加しているみなさんにも発信しようと心がけた。 ・「遊び・楽しみ」は防災かと言われれば防災であると思う。特に、避難所で何もない状態でも楽しみを見つけることが出来ることは力強いはずだ。ただ役に立つ物だけでなく、それらを使用して楽しむことが出来るようにも考えた。
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の合間を縫っての準備なので、予習、買い物、搬入には非常に時間がかかった。また、協力者もそれぞれ仕事があるため、話し合いの時間をとることでできず、ほぼ自分ひとりで準備することになる。 ・ほとんどが小学生以下の子どもがいる主婦の為、話し合うための時間をとることが出来ないが、だからこそ、自分のやりたいことがそのまま実践でき、協力者の負担も少なかったことで今まで続けることが出来たとも言える。 ・参加人数が当日まで分からないので、準備を多めにするようになるが、ロスも多い。(今後の活動に利用するからムダにはならないが、材料費が多めに必要になる) ・児童館だけの活動ではなく他の多くの施設や店などと連携がとれたのは良かったが、事前の打ち合わせや予定を合わせることに多くの時間を費やした。自分の仕事の関係もあり、日中時間をとることが難しかった。(物の準備なら夜にすることが出来るが、これはそうもいかない) メリットも多いが、やはり大変である。 ・「防災教育チャレンジプラン」があるからこそ、今までにかかわりのなかった所にも働きかけることが出来た
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は今までより登録者（児童数）が多かったが、参加率がだんだん下がってきてしまった。継続してくる子は何年も来てくれるが、全員に魅力的な内容とはいかなかったのだろう。参加者があまりに多くても準備が困難になるため、10数人のこの人数がベストだったと思われる。 ・他所とのかかわりを増やすと、その準備の為の打ち合わせやお礼（写真とメッセージ入り色紙をプレゼントした）に時間がかかりかかるため、メリットも大きいですが、実施が難しいと感じたが、双方のプラスになることも多く、有意義だった。 ・未だに小学校は敷居が高いと言われる。確かに校内に入るのは勇気がいるが、児童館なら、もっと気楽に入ることが出来ると思う。一般の方々（特に施設の入居者）は、子ども達との交流を楽しみにしてくれていると強く感じた。上富田ふれあいルームを通して今後も開かれた児童館活動を目指したい。 ・今は、大変なことも全部楽しかったと思える

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	上富田町教育委員会 上富田町役場（防災担当者・上富田町長） 朝来小学校 熊野高等学校（農業クラブ）	活動全般（資金提供） 防災訓練参加 語り部と防災教室 合同活動
保護者・ PTAの組織	上富田ふれあいルーム登録者の保護者	安全監理員・ボランティア参加
地域組織	山桃会 上富田町身体障害者会 いっちょやったろう会（彦五郎慰霊祭主催者）	合同活動 あいサポーター研修 彦五郎慰霊祭参加
国・地方公共団体・ 公共施設	地球温暖化防止活動推進員 子どもエコクラブ （活動レポート新人賞受賞） シニアホーム鯨洋 牟婁さくら園 おちや震災ミュージアム そなえ館 豊橋市障害者福祉会館 さくらピア	環境保全活動情報提供 活動報告 訪問・創作活動 訪問 情報交換 情報提供
企業・ 産業関連の組合等	深見梅店 一般社団法人 日本有機梅協会 エフノカッテ FM 白浜ビーチステーション NHK 和歌山ラジオ 紀伊民報	訪問指導 訪問指導 浮くっちゃボトル設置 防災ラジオ出演 防災ラジオ出演 取材
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動 56 回のうち、「子どもエコクラブ」を 22 回 「和歌山ってスゴイ」を 18 回実施することができた。 ・「防災」を目指していたら、地域を知ること、地域を好きになること、地域の人とつながることが実現できていた。これこそ、まさに「防災」である。 ・「緊急情報キット」の製作について、上富田ではまだ配布されていないので、試験的に一部で配布しようという話があることを知った。キットは市販もされているが、ふれあいルームで製作した物は「上富田の特徴」を際立たせたデザインであり、一つずつ手作りしたりリサイクル工作でもあり、上富田町民には一番馴染みあるキットなので、可能なら、ふれあいルームで製作して、町民に配布してもらいたいと思う。 ・今回は「和歌山」に焦点を当てて調べた。これらを知ることが出来たこと、たくさんの「和歌山ってスゴイ！」に巡り合えたことが一番の成果として得られたことだと思う。 <p>そして、多くの子ども達の笑顔と、心から協力してくれる仲間に出会えたことが「防災教育チャレンジプラン」で得られた最大の私へのプレゼントです。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことが実践できるのはありがたいが、独りよがりな所もあると思う。もっと協力者みんなの意見を取り入れながら実施できた方が良いが、それぞれの仕事を持つ中では難しいかもしれない。 ・明らかに詰め込みすぎで、時間オーバーすることも多々あった。時間不足の中、実施したいことがありすぎて、欲張ってしまったが、もっとゆったりと子ども達のアイデアを取り入れ、気持ちを聞きながら実施する方が子ども達の心により深く残ったと思われる。 ・疲れた～でも楽しかった
<p>今後の 継続予定</p>	<p>今年度実施した 56 プランに加え、今までに実施した物、まだ未実施の物を含めると、計 112 プランある。(まだまだ増えると思われる) 人気のある物、毎年行う予定の物(避難所宿泊体験など)を、実施回数内で選択し、私が続けられる限りは続けたいと思っている。</p> <p>どんな防災教室をやってみたいと子ども達が望んでいるのかを知る努力も必要と思う。</p> <p>この報告書は、他の人が実践する上ではわかりやすいが、今年度実施した内容しか記載できない。たとえば、「避難所宿泊体験」には他にもいくつかのプランを取り入れられるが、時間の都合上選択して実施しなければならない。宿泊時だからこそできるプランをまとめて記述することで、実践したい人にはより選択の幅が広がると思われる。</p> <p>このプランを実践する時の注意点(たとえば、準備のしやすさ、料金の安さ、低学年向き、高学年向き、〇〇を学ばせたい時はこのプラン)などが分かりにくいため、これらのプランを写真入りで評価項目もつけた冊子の製作を考えている。(次年度実施予定)</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

今年度の振り返り

今年は、「実践」の年だった。実践することで精いっぱい、うまくまとめるところまでできなかった。また、防災教育につながる商品のアイデアもいくつかあったが、それらを作る時間がなかった。

今年こそ最後にしようと思っていたが、来年度は、今まで12年間の「上富田ふれあいルーム」で実践したプランを分かりやすく評価した、「写真入りのカラーマニュアル」と「防災教育補助商品」を作る目的で再度応募する。(採択決定)

ほとんど毎週の防災行事の準備で非常に忙しかったが、充実し、満足した。来年はもう少しムリのないように進めていきたい。

個人的活動

- ・毎年1月17日前に、朝来小学校6年生への阪神淡路大震災の語り部と防災工作指導（ゴミ袋のレインコート製作）（平成23年度より8年目）
- ・「はまゆう」という随筆の冊子（年2回発行13回目）に阪神淡路大震災から数日間書いていた日記を掲載している。
- ・医療者として次の大規模災害時に役に立てるナースになるために、「救急救命士」の資格を取り、「災害支援ナース」の登録をした。
- ・物がなくても医療的な処置ができるよう、ペットボトルを利用した吸引器を製作中
- ・他団体主催の勉強会、宿泊体験等、特に障害のある人と一緒に過ごすことが出来る避難所を目指した勉強に積極的に参加している。（ゆめ風基金の活動に賛同している）
- ・防災講演会の依頼が増えてきた（現在までに約60回）

自分の町をどのようにしていきたいか

①上富田町後方支援拠点（仮）

遠野市後方支援資料館「海がない、津波が来ない、だからこそ果たすべき役割がある」

上富田町は白浜や田辺が津波被害に遭った時に後方支援出来る場所として、白浜や田辺の備蓄を上富田町内に備えるとか、上富田の避難所を利用できるように紹介するなど、支援する拠点を上富田に置くなどもっと連携をとってもいいと思う。

②上富田町防災訓練・避難所運営訓練について

「全ての人と一緒に過ごすことが出来る避難所」を目指したいと思っている。

「あいサポート研修」受講促進。

子どもでも楽しめる、障害がある人や年配者にもメリットがある訓練にしていきたい。

③車でも避難できるまちづくり

車で避難するとどういうことが起こるのか周知が必要。

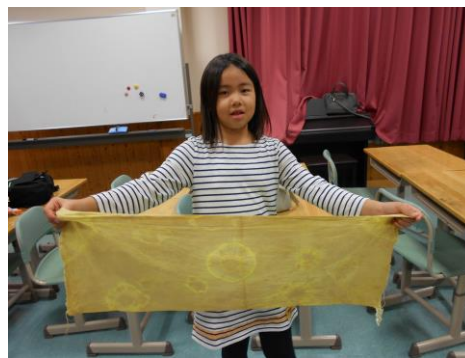


同時に、車でなければ避難出来ない人は車で避難出来るように整備していくことも必要。

④ 普段から訓練を

上富田文化会館で「避難訓練コンサート」をぜひやってほしい。スーパーでもやってほしい避難の方法だけでなく、参加者に「今家族に連絡をとろうと思ったら、スマホを家に忘れていました。どうやって連絡を取りますか？家が危険な場合、どこで集合することになっていますか」などと問いかけ、家族で連絡を取る方法について考えるきっかけになるように進める。

とびきりの笑顔



シニアホーム 鯨洋製作の張子 八咫鳥





私がこの12年で得られた最大のプレゼントは子ども達の笑顔と、心から協力してくれる仲間との出会いです。

Thank You!

(自由記述: 3/3)